

研修日程表

事業者名 アンダンテキャピタル株式会社

研修事業の名称 新横浜ケアカレッジ

研修指定番号及び個別番号

研修期間： 令和6年6月3日 ～ 令和6年7月2日

月日	時間	時間数	科目番号/項目番号/項目名	講師	会場
6月3日	09:30~10:00	0.5	オリエンテーション	事務担当	新横浜
	10:00~11:00	3.0	1(1) 多様なサービスの理解	久保原 茂	新横浜
	11:10~12:10				
	12:20~13:20				
	14:10~15:10	3.0	1(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解	久保原 茂	新横浜
	15:20~16:20				
	16:30~17:30				
6月4日	09:30~10:30	6.0	2(1) 人権と尊厳を支える介護	久保原 茂	新横浜
	10:40~11:40				
	11:50~12:50				
	13:40~14:40				
	14:50~15:50				
	16:00~17:00				
6月5日	09:30~10:30	2.0	3(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携	甲田 幸正	新横浜
	10:40~11:40				
	11:50~12:50	1.0	3(2) 介護職の職業倫理	甲田 幸正	新横浜
	13:40~14:40	1.5	3(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント	甲田 幸正	新横浜
	14:50~15:20				
	15:30~16:00	1.5	3(4) 介護職の安全	甲田 幸正	新横浜
	16:10~17:10				
6月6日	09:30~10:30	3.0	4(1) 介護保険制度	加藤 典之	新横浜
	10:40~11:40				
	11:50~12:50				
	13:40~14:40	3.0	4(2) 医療との連携とリハビリテーション	西村 太希	新横浜
	14:50~15:50				
	16:00~17:00				
6月7日	09:30~10:30	3.0	5(1) 介護におけるコミュニケーション	甲田 幸正	新横浜

	10 : 40～11 : 40				
	11 : 50～12 : 50				
	13 : 40～14 : 40	3.0	5(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	甲田 幸正	新横浜
	14 : 50～15 : 50				
	16 : 00～17 : 00				
6月10日	09 : 30～10 : 30	3.0	6(1) 老化に伴うこころとからだの変化と日常	小川 智明	新横浜
	10 : 40～11 : 40				
	11 : 50～12 : 50				
	13 : 40～14 : 40	3.0	6(2) 高齢者と健康	小川 智明	新横浜
	14 : 50～15 : 50				
	16 : 00～17 : 00				
6月11日	09 : 30～10 : 30	1.0	7(1) 認知症を取り巻く状況	小川 智明	新横浜
	10 : 40～11 : 40	2.0	7(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	小川 智明	新横浜
	11 : 50～12 : 50				
	13 : 40～14 : 40	2.0	7(3) 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	小川 智明	新横浜
	14 : 50～15 : 50				
	16 : 00～17 : 00	1.0	7(4) 家族への支援	小川 智明	新横浜
6月12日	09 : 30～10 : 30	3.0	4(3) 障害者福祉制度及びその他の制度	加藤 典之	新横浜
	10 : 40～11 : 40				
	11 : 50～12 : 50				
	13 : 40～14 : 10	0.5	8(1) 障害の基礎的理解	加藤 典之	新横浜
	14 : 20～15 : 20	2.0	8(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	加藤 典之	新横浜
	15 : 30～16 : 30				
	16 : 40～17 : 10	0.5	8(3) 家族の心理、かかわり支援の理解	加藤 典之	新横浜
6月13日	09 : 30～10 : 30	3.0	9(1) 介護の基本的な考え方	福満 丈宏	新横浜
	10 : 40～11 : 40				
	11 : 50～12 : 50				
	13 : 40～14 : 40	3.0	2(2) 自立に向けた介護	福満 丈宏	新横浜
	14 : 50～15 : 50				
	16 : 00～17 : 00				
6月14日	09 : 30～10 : 30	3.0	9(2) 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	福満 丈宏	新横浜

	10 : 40~11 : 40				
	11 : 50~12 : 50				
	13 : 40~14 : 40	4.0	9(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	福満 丈宏	新横浜
	14 : 50~15 : 50				
	16 : 00~17 : 00				
	17 : 10~18 : 10				
6月17日	09 : 30~10 : 30	3.0	9(4) 生活と家事	柳川 美月	新横浜
	10 : 40~11 : 40				
	11 : 50~12 : 50				
	13 : 40~14 : 40	3.0	9(5) 快適な居住環境整備と介護	西村 太希	新横浜
	14 : 50~15 : 50				
	16 : 00~17 : 00				
6月18日	09 : 30~10 : 30	6.0	9(11) 睡眠に関するところとからだのしくみと自立に向けた介護	森 加奈湖	新横浜
	10 : 40~11 : 40				
	11 : 50~12 : 50				
	13 : 40~14 : 40				
	14 : 50~15 : 50				
	16 : 00~17 : 00				
6月19日	09 : 30~10 : 30	6.0	9(7) 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護(1)	森 加奈湖	新横浜
	10 : 40~11 : 40				
	11 : 50~12 : 50				
	13 : 40~14 : 40				
	14 : 50~15 : 50				
	16 : 00~17 : 00				
6月20日	09 : 30~10 : 30	6.0	9(7) 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護(2)	森 加奈湖	新横浜
	10 : 40~11 : 40				
	11 : 50~12 : 50				
	13 : 40~14 : 40				
	14 : 50~15 : 50				
	16 : 00~17 : 00				
6月21日	09 : 30~10 : 30	6.0	9(6) 整容に関連したところと	森 加奈湖	新横浜

			からだのしくみと自立に向けた介護		
	10 : 40~11 : 40				
	11 : 50~12 : 50				
	13 : 40~14 : 40				
	14 : 50~15 : 50				
	16 : 00~17 : 00				
6月24日	09 : 30~10 : 30	6.0	9(8) 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	森 加奈湖	新横浜
	10 : 40~11 : 40				
	11 : 50~12 : 50				
	13 : 40~14 : 40				
	14 : 50~15 : 50				
	16 : 00~17 : 00				
6月25日	09 : 30~10 : 30	6.0	9(10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	飯田 由美子	新横浜
	10 : 40~11 : 40				
	11 : 50~12 : 50				
	13 : 40~14 : 40				
	14 : 50~15 : 50				
	16 : 00~17 : 00				
6月26日	09 : 30~10 : 30	6.0	9(9) 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	飯田 由美子	新横浜
	10 : 40~11 : 40				
	11 : 50~12 : 50				
	13 : 40~14 : 40				
	14 : 50~15 : 50				
	16 : 00~17 : 00				
6月27日	09 : 30~10 : 30	3.0	9(12) 死にゆく人に関するところとからだのしくみと終末期介護	飯田 由美子	新横浜
	10 : 40~11 : 40				
	11 : 50~12 : 50				
	13 : 40~14 : 40	2.0	9(13) 介護過程の基礎的理解(1)	飯田 由美子	新横浜
	14 : 50~15 : 50				
6月28日	09 : 30~10 : 30	2.0	9(13) 介護過程の基礎的理解	飯田 由美子	新横浜

			(2)		
	10 : 40~11 : 40				
	11 : 50~12 : 50	4.0	9(14) 総合生活支援技術演習 (1)	飯田 由美子	新横浜
	13 : 40~14 : 40				
	14 : 50~15 : 50				
	16 : 00~17 : 00				
7月1日	09 : 30~10 : 30	2.0	9(13) 介護過程の基礎的理解 (3)	飯田 由美子	新横浜
	10 : 40~11 : 40				
	11 : 50~12 : 50	4.0	9(14) 総合生活支援技術演習 (2)	飯田 由美子	新横浜
	13 : 40~14 : 40				
	14 : 50~15 : 50				
	16 : 00~17 : 00				
7月2日	09 : 30~10 : 30	3.0	10(1) 振り返り	森 加奈湖	新横浜
	10 : 40~11 : 40				
	11 : 50~12 : 50				
	13 : 40~14 : 40	1.0	10(2) 就業への備えと研修修了 後における継続的な研修	森 加奈湖	新横浜
	14 : 50~15 : 50	1.0	修了評価試験	事務担当	

*オリエンテーション、修了評価試験も記載する。

介護職員初任者研修カリキュラム

事業者名 アンダンテキャピタル株式会社

研修事業の名称 新横浜ケアカレッジ 初任者研修

1 職務の理解（6時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①多様なサービスの理解	3時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険サービス（居宅） ⇨介護保険による居宅サービスの種類と、サービスが提供される場の特性を理解する。 ・介護保険サービス（施設） ⇨介護保険による施設サービスの種類と、サービスが提供される場の特性を理解する。 ・介護保険外サービス ⇨介護保険外のサービスの種類と、サービスが提供される意義や目的を理解する。
②介護職の仕事内容や働く現場の理解	3時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 ⇨各種サービスの内容や利用者像などを通じて、介護職の仕事内容や働く現場を理解する。 ・居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ ⇨ケアマネジメントを通じて、介護サービス提供にいたるまでの流れを理解する。 ・ケアプランの位置付けに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携 ⇨チームアプローチの必要性と、具体的な連携方法を理解する。 <p>テキスト付属の映像教材を用いて、介護サービスを提供する現場ごとに違いがあることを理解する。</p> <p>《演習内容》</p> <p>居宅サービス・施設サービス・介護保険外サービスの長所・短所についてグループディスカッションを行い、サービスについての理解を深める。</p>
合計	6時間	

2 介護における尊厳の保持・自立支援（9時間）

項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①人権と尊厳を支える介護	6時間	<p>《講義内容》</p> <p>(ア) 人権と尊厳の保持</p> <p>⇨個人として尊重、・アドボカシー、・エンパワメントの視点、・「役割」の実感、・尊厳のある暮らし、・利用者のプライバシーの保護について学習する</p> <p>(イ) ICF</p> <p>⇨介護分野における ICF について学習する</p> <p>(ウ) QOL</p> <p>⇨QOL の考え方、生活の質とは何かについて学習する</p> <p>(エ) ノーマライゼーション</p> <p>⇨ノーマライゼーションの考え方について学習する。</p> <p>(オ) 虐待防止・身体拘束禁止</p> <p>⇨身体拘束禁止、・高齢者虐待防止法、・高齢者の養護者支援について理解する。</p> <p>(カ) 個人の権利を守る制度の概要</p> <p>⇨個人情報保護法、・成年後見制度、・日常生活自立支援事業について学習する</p> <p>《演習内容》</p> <p>・「虐待」「身体抑制」につながってしまうケアについて考え、どのような対応が求められるのかグループでディスカッションして気付き理解を深める</p>
②自立に向けた介護	3時間	<p>《講義内容》</p> <p>(ア) 自立支援</p> <p>⇨自立・自律支援、・残存能力の活用、・動機と欲求、・意欲を高める支援、・個別性/個別ケア、・重度化防止 など、「その人らしさ」を尊重するために、介護職として配慮すべき点について理解する。</p> <p>(イ) 介護予防</p> <p>⇨介護の予防の考え方について理解する。</p> <p>《演習内容》</p> <p>・具体的な事例を用いて利用者の残存機能を活用することを、グループディスカッションを通じて気づかせ、そのことが利用者の自立支援や重度化の防止・遅延化にも資することを理解させる</p>
合計	9時間	

3 介護の基本（6時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護職の役割、専門性と多職種との連携	2時間	<p>《講義内容》</p> <p>(ア) 介護環境の特徴と理解</p> <p>○訪問介護と施設介護サービスの違い、・地域包括ケアの方向性 など介護環境の特徴を学ぶ。</p> <p>(イ) 介護の専門性</p> <p>○重度化防止・遅延化の視点、・利用者主体の支援姿勢、・自立した生活を支えるための援助、・根拠のある介護、・チームケアの重要性、・事業所内のチーム、・多職種から成るチームについて学習する。</p> <p>(ウ) 介護にかかわる職種</p> <p>○異なる専門性を持つ多職種の理解、・介護支援専門員、・サービス提供責任者、・看護師等とチームとなり利用者を支える意味、・互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供、・チームケアにおける役割分担について学び、利用者を支援するさまざまな専門職について理解する。</p> <p>《演習内容》</p> <p>・尊厳の保持やプライバシーの確保を妨げる不適切な対応を挙げさせ、適切な対応方法をグループワークで確認し、他グループと共有する。</p>
②介護職の職業倫理	1時間	<p>《講義内容》</p> <p>・職業倫理</p> <p>○専門職の倫理の意義、・介護の倫理(介護福祉士の倫理と介護福祉士制度 等)、・介護職としての社会的責任、・プライバシーの保護・尊重など日本介護福祉士会倫理綱領を参考に介護職にかかわる倫理綱領を理解する。</p>
③介護における安全の確保とリスクマネジメント	1.5時間	<p>《講義内容》</p> <p>(ア) 介護における安全の確保</p> <p>○事故に結びつく要因を探り対応していく技術、・リスクとハザードについて学ぶ。</p> <p>(イ) 事故予防, 安全対策</p> <p>○リスクマネジメント、・分析の手法と視点、・事故に至った経緯の報告(家族への報告、市町村への報告等)、・情報の共有など、利用者の生活を守る技術としてのリスクマネジメントの視点を学習する。</p> <p>(ウ) 感染対策</p> <p>○感染の原因と経路(感染源の排除、感染経路の遮断)、・「感染」に対する正しい知識を学習する。</p>
④介護職の安全	1.5時間	<p>《講義内容》</p> <p>・介護職の心身の健康管理</p> <p>○介護職の健康管理が介護の質に影響、・ストレスマネジメント、・腰痛の予防に関する知識、・手洗い・うがいの励行、・手洗いの基本、・感染症対策について学習する。</p> <p>《演習内容》</p> <p>・講師の実演に基づき、手洗い、うがいの方法を全員でシミュレーションする。</p>
合計	6時間	

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（9時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護保険制度	3時間	<p>《講義内容》</p> <p>(ア) 介護保険制度創設の背景および目的、動向</p> <p>⇨ ケアマネジメント、・予防重視型システムへの転換、・地域包括支援センターの設置、・地域包括ケアシステムの推進について学習する</p> <p>れた背景を理解したうえで、制度の目的と動向について学ぶ。</p> <p>(イ) 介護保険制度のしくみの基礎的理解</p> <p>⇨ 保険制度としての基本的仕組み、・介護給付と種類、・予防給付、・要介護認定の手順を理解する。</p> <p>(ウ) 制度を支える財源、組織・団体の機能と役割</p> <p>⇨ 財政負担、・指定介護サービス事業者の指定について学習する</p>
②医療との連携とリハビリテーション	3時間	<p>《講義内容》</p> <p>(ア) 医療行為と介護</p> <p>⇨ 介護職と医療行為の実情と経過について理解する。</p> <p>(イ) 訪問看護・施設における看護と介護の役割・連携</p> <p>⇨ 在宅および施設における介護職と看護職の役割・連携について理解する。</p> <p>(ウ) リハビリテーションの理念</p> <p>⇨ リハビリテーションの理念と考え方について学習する。</p> <p>《演習内容》</p> <p>・ 医行為を行ってはいけない理由を考え、医行為と医行為でないものについてリスト化し理解を深める。</p>
③障害福祉制度およびその他制度	3時間	<p>《講義内容》</p> <p>(ア) 障害者福祉制度の概念</p> <p>⇨ 障害の概念、・ICF(国際生活機能分類)について学習する。</p> <p>(イ) 障害者福祉制度の仕組みの基礎的理解</p> <p>⇨ 介護給付・訓練等給付の申請から支給決定までの流れを学習する。</p> <p>(ウ) 個人の権利を守る制度の概要</p> <p>⇨ 個人情報保護法、・成年後見制度、・日常生活自立支援事業等の基本的なしくみについて理解する。</p>
合計	9時間	

5 介護におけるコミュニケーション技術（6時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護におけるコミュニケーション	3時間	<p>《講義内容》</p> <p>(ア) 介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割</p> <p>⇨相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮、・傾聴、・共感の応答など対人援助関係におけるコミュニケーションの意義と目的を理解する。</p> <p>(イ) コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション</p> <p>⇨言語的コミュニケーションの特徴、・非言語コミュニケーションの特徴について学習する。</p> <p>(ウ) 利用者・家族とのコミュニケーションの実際</p> <p>・利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際</p> <p>⇨利用者の思いを把握する、・意欲低下の要因を考える、・利用者の感情に共感する、・家族の心理的理解、・家族へのいたわりと励まし、・信頼関係の形成、・自分の価値観で家族の意向を判断し非難することがないようにする、・アセスメントの手法とニーズとデマンドの違いについて学習する。</p> <p>(エ) 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションの実際</p> <p>⇨視力、聴力の障害に応じたコミュニケーション技術、・失語症に応じたコミュニケーション技術、・構音障害に応じたコミュニケーション技術、・認知症に応じたコミュニケーション技術について学習する</p> <p>《演習内容》</p> <p>・具体的な事例（認知症など）を用いて、利用者や家族が抱きやすい葛藤や介護における相談援助技術の重要性をグループで話し合い、介護職としてもつべき視点を分かち合う。</p>
②介護におけるチームのコミュニケーション	3時間	<p>《講義内容》</p> <p>(ア) 記録における情報の共有化</p> <p>⇨介護における記録の意義・目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録、・介護に関する記録の種類、・個別援助計画書（訪問・通所・入所、福祉用具貸与等）、・ヒヤリハット報告書、・5W1Hなどの書き方の留意点などについて学習する。</p> <p>(イ) 報告</p> <p>⇨報告の留意点、・連絡の留意点、・相談の留意点を理解し、具体的な方法について学習する。</p> <p>(エ) コミュニケーションを促す環境</p> <p>⇨会議、・情報共有の場、・役割の認識の場(利用者とは頻りに接触する介護者に求められる観察眼)、・ケアカンファレンスの重要性を理解し、具体的な進め方について学習する。</p> <p>《演習内容》</p> <p>・事例を用いて、実際に記録（支援経過）を作成し、記載方法を学習する。</p>
合計	6時間	

6 老化の理解（6時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①老化に伴うこころとからだの変化と日常	3時間	<p>《講義内容》</p> <p>(ア) 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ⇨ 防衛反応(反射)の変化、・喪失体験などを踏まえて学習する <p>(イ) 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響</p> <ul style="list-style-type: none"> ⇨ 身体的機能の変化と日常生活への影響、・咀嚼機能の低下、・筋・骨・関節 の変化、・体温維持機能の変化、・精神的機能の変化と日常生活への影響について学習する。 <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで老化について社会的、身体的、精神的、知的側面から話し合い、老化に伴う変化を理解することの重要性と継続的に学ぶ必要性への気づきを促す
②高齢者と健康	3時間	<p>《講義内容》</p> <p>(ア) 高齢者の症状・疾患の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ⇨ 骨折、・筋力の低下と動き・姿勢の変化、・関節痛など高齢者の多くにみられる症状や訴えがどのような疾病から起こるかなど、その特徴について学習する。 <p>(イ) 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ⇨ 循環器障害(脳梗塞、脳出血、虚血性心疾患)、・循環器障害の危険因子と対策、・老年期うつ病症状(強い不安感、焦燥感を背景に、「訴え」の多さが全面に出る、うつ病性仮性認知症)、・誤嚥性肺炎、・症状の小さな変化に気付く視点、・高齢者は感染症にかかりやすいなど高齢者に多い病気の原因や特徴、その病気をかかえる高齢者の生活上の留意点について学習する。
合計	6時間	

7 認知症の理解(6時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 認知症を取り巻く状況	1時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症のケアの理念 ⇨「認知症を中心としたケア」から、「その人を中心としたケア（パーソンセンタードケア）」に転換することの意義を理解する。 ・認知症ケアの視点 ⇨問題視するのではなく、人として接することを理解する。できないことではなく、できることに着目して支援することを理解する。
②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理 ⇨認知症の定義、・もの忘れとの違い、・せん妄の症状、・健康管理(脱水・便秘・低栄養・低運動の防止、口腔ケア)、・治療、・薬物療法、・認知症に使用される薬などを学習する。 認知症に類似した症状をもつ疾病について学習する アルツハイマー型認知症、血管性認知症をはじめとした認知症のおもな原因疾患の病態、症状について学習する。
③認知症に伴うこととからだの変化と日常生活	2時間	<p>《講義内容》</p> <p>(ア) 認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ⇨認知症の中核症状、・認知症の行動・心理症状(BPSD)、・不適切なケア、・生活環境で改善など認知症の症状を知ることによって、どのようなケアが必要かを学習する。 <p>(イ) 認知症の人への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ⇨本人の気持ちを推察する、・プライドを傷つけない、・相手の世界に合わせる、・失敗しないような状況をつくる、・すべての援助行為がコミュニケーションであると考え、・身体を通じたコミュニケーション、・相手の様子・表情・視線・姿勢などから気持ちを洞察する、・認知症の進行に合わせたケアを学習する。 <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の方への接し方について課題を出し、グループで話し合い、他のグループと意見を共有し、介護職として認知症を理解することの重要性への気づきを促す。 ・認知症の利用者の心理・行動の実際を実感できるよう事例で示し、グループで話し合い、他グループと意見を共有する。
④家族への支援	1時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族への支援 ⇨認知症の受容過程での援助、・介護負担の軽減(レスパイトケア)、・家族介護者の介護の大変さについて理解し、レスパイトの重要性を学習する。
合計	6時間	

8 障害の理解（3時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①障害の基礎的理解	0.5時間	<p>《講義内容》</p> <p>(ア) 障害の概念とICF</p> <p>⇨ICFの分類と医学的分類、ICFの考え方を学習する。</p> <p>国際生活機能分類（ICF）にもとづきながら、「障害」の概念について理解する。</p> <p>(イ) 障害者福祉の基本理念</p> <p>⇨障害者福祉の基本理念（ノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョン）について学習する。</p>
②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかり支援等の基礎的知識	2時間	<p>《講義内容》</p> <p>(ア) 身体障害</p> <p>⇨視覚障害、聴覚、平衡障害、音声・言語・咀嚼障害、肢体不自由、内部障害について学習する</p> <p>(イ) 知的障害</p> <p>⇨知的障害について学習する</p> <p>(ウ) 精神障害(高次脳機能障害・発達障害を含む)</p> <p>⇨統合失調症・気分(感情障害)・依存症などの精神疾患、高次脳機能障害、広汎性発達障害・学習障害・注意欠陥多動性障害などの発達障害について学習する。</p> <p>(エ) その他の心身の機能障害</p> <p>⇨難病などについて学習する。</p>
③家族の心理、かかり支援の理解	0.5時間	<p>《講義内容》</p> <p>・家族への支援</p> <p>⇨障害の理解・障害の受容支援、介護負担の軽減など、家族支援は、家族介護の肩代わり支援だけではないことを学ぶ。家族のとらえ方および支援（レスパイトサービス）について学習する。</p> <p>《演習内容》</p> <p>・障害の受容のプロセスと基本的な介護の考え方についてグループワークを行い、互いに違う価値観などを共有し、介護職の役割を確認する</p>
合計	3時間	

9 こころとからだのしくみと生活支援技術（75 時間）

基本知識の学習	項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
	①介護の基本的な考え方	3 時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 理論にもとづく介護(ICF の視点に基づく生活支援、我流介護の排除) ⇨ 「介護」が理論的にどのような変遷をたどってきたのかについて理解する。 ・ 法的根拠にもとづく介護 ⇨ 「介護」が法的にどのような変遷をたどってきたのかについて理解する。 <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 求められる介護者像をグループディスカッションし、その内容を整理して発表する。
	②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3 時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習と記憶に関する基礎知識について学習する。 ・ 感情と意欲に関する基礎知識について学習する。 ・ 自己概念と生きがい。 ⇨ 発達段階ごとに見る自己概念の形成や人間の持つ欲求（マズロー）について学習する ・ 老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因について学習する。 ・ こころの持ち方が行動に与える影響について学習する。、 ・ からだの状態がこころに与える影響について学習する <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人は「内発的・外発的動機」が発生することで「心が動き」、「言動が起きる」というメカニズムを解説し、事例の対象者のその言動は何から来るものなのか考えるグループワークを行う。
	③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	4 時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生命の維持・恒常のしくみについて学習する。 ・ 人体の各部の名称と動きに関する基礎知識について学習する。 ・ 骨・関節・筋に関する基礎知識とボディメカニクスの活用について学習する。 ・ 中枢神経と体性神経に関する基礎知識について学習する ・ 自律神経と内部器官に関する基礎知識について学習する ・ こころとからだを一体的に捉えるについて学習する ・ 利用者の様子の普段との違いに気づく視点について学習する <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ バイタルサインチェックの測り方を演習する。 <p>体温・脈拍・呼吸・血圧。</p>

生活支援技術の講義・演習	④生活と家事	3 時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活と家事の理解 <p>⇨生活歴の把握、自立支援について確認し生活を継続していくための家事の重要性について学習する。</p> <p>家事援助（調理，洗濯，掃除などの援助）は利用者にとってどのような意味があるのかを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家事援助に関する基礎的知識と生活支援 <p>⇨予防的な対応、・主体性・能動性を引き出す、・多様な生活習慣、・価値観について学習し、家事援助とは何かについて具体的に理解する。</p> <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雑巾作り、ボタン付け
	⑤快適な居住環境整備と介護	3 時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・快適な居住環境に関する基礎知識 <p>⇨家庭内に多い事故を確認し、安心して快適に生活するために必要な環境の整備とは何かについて学習する。</p> <p>住まいにおける安心・快適な室内環境（バリアフリー）の確保の仕方について学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法 <p>⇨高齢者や障害のある人が生活するなかで、住宅改修や福祉用具貸与を利用する意味や視点を学習する。</p> <p>《演習内容》</p> <p>演習 1 車椅子自走での開戸の開閉</p> <p>演習 2 3 モーターベッド上でのギャッジアップ、ダウンにおける身体への影響確認する。</p>
	⑥整容に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護	6 時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整容に関する基礎知識、整容の支援技術 <p>⇨身体状況に合わせた衣服の選択、着脱、身じたく、整容行動（整髪、髭の手入れ、化粧）、洗面の意義・効果について学習する</p> <p>《演習内容》</p> <p>演習 1 部分清拭(顔拭き)の介護</p> <p>演習 2 座位での衣服の着脱(一部介助・片麻痺)の介護</p> <p>2-1 前開きの上衣の着脱</p> <p>2-2 かぶりの上衣の着脱</p> <p>2-3 ズボンの着脱</p> <p>演習 3 ベッド上での衣類の着脱(全面介助・片麻痺)の介護</p> <p>3-1 前開き上衣の着脱</p> <p>3-2 ズボンの着脱</p>

<p>⑦移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>12 時間</p>	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・残存能力の活用・自立支援、ボディメカニクスの基本原則、利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法、利用者の自然な動きの活用、重心・重力の動きの理解などの移動・移乗に関する基礎知識・褥瘡予防について学習する ※立ち上がり動作のメカニズムは再度確認を行う。 <p>《演習内容》</p> <p>演習 1 ボディメカニクスの実践</p> <p>演習 2 移動・移乗の支援</p> <p>2-1 体位変換の介護（一部介助・全介助）※片麻痺</p> <p>2-2 仰臥位→側臥位→端座位→立位への介護（一部介助）</p> <p>2-3 端座位→立位への介護（全介助）</p> <p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法を理解する。 ・利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するところとからだの要因と支援方法について学習する ・移動行為と社会参加の留意点について学習する <p>《演習内容》</p> <p>演習 3 半身麻痺の利用者の杖歩行の介護</p> <p>3-1 3 動作歩行・2 動作歩行・段差越え（障害物を越える）</p> <p>3-2 階段の昇降</p> <p>演習 4 車いすでの移動介護</p> <p>5-1 段差越え</p> <p>5-2 坂道の上下り</p> <p>演習 5 ベッド車いす間の移乗の介護</p> <p>4-1 一部介助でのベッド⇄車いす間の移乗介護</p> <p>4-2 全介助でのベッド⇄車いす間の移乗介護</p>
<p>⑧食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>6 時間</p>	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事に関する基礎知識（食事をする意味、食事のケアに対する介護者の意識）について学習する ・食事に関した身体的な理解（低栄養・脱水の弊害、咀嚼・嚥下のメカニズム）について学習する ・食事に関する心理的な理解（空腹感、満腹感、好み）について学習する ・食事に関する環境の理解（食事の時間・場所等、食事の姿勢）について学習する ・食事に関する福祉用具の活用と介助方法について学習する ・楽しい食事を阻害するところとからだの要因と支援方法について学習する ・食事と社会参加の留意点と支援について学習する ・誤嚥性肺炎の予防の視点と、口腔ケアの重要性、方法について学習する <p>《演習内容》</p> <p>演習 1 食事、飲水の介護</p> <p>1-1 正しいトロミの付け方</p> <p>1-2 椅子上での食事全介助</p> <p>1-3 椅子上での視覚障害者の介助</p> <p>演習 2 口腔ケアの介護</p>

<p>⑨入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>6 時間</p>	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入浴、清潔保持に関連した基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 ⇨羞恥心や遠慮への配慮、・体調の確認、・全身清拭(身体状況の確認、室内環境の調整、使用物品の準備と使用方法、全身の拭き方、身体の支え方)、・目・鼻腔・耳・爪の清潔方法、・陰部清浄(臥床状態での方法)、・足浴・手浴・洗髪について方法や留意点について学習する。 <p>《演習内容》</p> <p>演習 1 洗髪の介護(臥床状態での介護)</p> <p>演習 2 入浴の介護(片麻痺の利用者、浴槽への出入り)</p> <p>演習 3 全身清拭の介護</p> <p>演習 4 足浴の介護</p>
<p>⑩排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>6 時間</p>	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄に関する身体的(生理的)側面について学習する ・排泄に関する心理的側面(プライド・羞恥心、プライバシーの確保、心理的負担・尊厳や生きる意欲との関連)について学習する ・排泄に関する社会的側面(排泄障害が日常生活に及ぼす影響、おむつは最後の手段/おむつ使用の弊害)について学習する ・排泄環境整備と排泄用具の活用方法について学習する ・便秘の予防(水分の摂取量保持、食事内容の工夫/繊維質の食物を多く取り入れる、腹部マッサージ)について学習する <p>《演習内容》</p> <p>演習 1 物品紹介として、尿器、差し込み便器の解説をする</p> <p>演習 2 おむつ交換(臥床状態での陰部清浄含む)</p> <p>演習 3 一部介助を要する利用者のポータブルトイレ介護</p>
<p>⑪睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>6 時間</p>	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・睡眠の必要性と、睡眠に関するところとからだのしくみを学習する。 ・安眠のための環境の整備(温度や湿度、光、音、よく眠るための寝室)と介護の工夫(安楽な姿勢・褥瘡予防)について学習する。 ・快い睡眠を阻害する要因の理解と支援方法を学習する。 <p>《演習内容》</p> <p>演習 1 空きベッドでのベッドメイキング</p> <p>演習 2 臥床している状態でのシーツ交換</p>
<p>⑫死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期介護</p>	<p>3 時間</p>	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・終末期に関する基礎知識について概説し終末期ケアについて学習する ・終末期におけるからだのしくみ(生から死への過程)について学習する ・高齢者の死に至る過程(高齢者の自然死(老衰)、癌死)について学習する ・終末期におけるところのしくみ(「死」に向き合うところの理解)について学習する ・臨終が近づいたときの兆候と介護のあり方について概説し、苦痛の少ない死への支援の方法、他職種間の情報共有の必要性について学習する <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際にあったターミナルケアの事例を題材にグループワークを行い、事例における利用者の状態やご家族の状況を分析し、実際に行ったケアを確認し、・より良いケアを提供するために、どのような点に注意すべきだったのかを話し合い、発表する

生活支援技術演習	⑬介護過程の基礎的理解	6 時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護過程の目的・意義・展開を学習する ・ 介護過程を通じてチームアプローチの重要性と方法を学習する <p>《演習内容》</p> <p>事例 1、2 にもとづき、個別援助計画の作成をする。</p>
	⑭総合生活支援技術演習	8 時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 設定された生活の場面での介護について、事例 1、2 の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の習得できるよう学習する。 <p>《演習内容》</p> <p>事例 1、2 の個別援助計画にもとづき、一連の介護技術を行い、技術習得度の評価を受ける。</p>
実習		0 時間	
合計		75 時間	

10 振り返り（4時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 振り返り	3時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきことを再確認する ・根拠に基づく介護についての要点を再確認する(利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等) ・グループごとに研修前に描いていた介護のイメージと、研修を通じた介護のイメージの変化について話し合い、その変化の理由を考え、学習することの必要性の理解を促す
②就業への備えと研修修了後における継続的な研修	1時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修終了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における実例（Off-JT、OJT）を紹介しながら、就業への備えについて説明する ・介護職員のキャリアパスについて概説し、継続的に学習すること重要性について説明する
合計	4時間	
全カリキュラム合計時間	130時間	

※規定時間数以上のカリキュラムを組んでもかまわない。

※本研修で独自に追加した科目には、科目名の前に「追加」と表示すること。

アンダンテキャピタル株式会社
新横浜ケアカレッジ
介護職員初任者研修(通学) 講師用資料

【目次】

1. 介護職員初任者研修の規定時間
 2. 受講生のカリキュラムの進め方
 3. 介護職員初任者研修の持ち物表
 4. 演習の留意事項と、講師・補助講師へのお願い
 5. 時間割と、日割りカリキュラム
- 別添 演習チェックリスト

※各演習の指導のポイントは、別添:演習チェックリストをご確認ください

2024.6月～

1. 介護職員初任者研修の規定時間

種別	科目名	規定時間	弊社時間	
			通学	通信
講義	1 職務の理解	6	3	0
	1① 多様なサービスの理解			
	1② 介護職の仕事内容や働く現場の理解		3	0
	2 介護における尊厳の保持・自立支援	9	6	0
	2① 人権と尊厳を支える介護			
	2② 自立に向けた介護		3	0
	3 介護の基本	6	2	0
	3① 介護職の役割、専門性と多職種との連携			
	3② 介護職の職業倫理		1	0
	3③ 介護における安全の確保とリスクマネジメント		1.5	0
	3④ 介護職の安全		1.5	0
	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	9	3	0
	4① 介護保険制度			
	4② 障害福祉制度及びその他制度		3	0
	4③ 医療との連携とリハビリテーション		3	0
	5 介護におけるコミュニケーション技術	6	3	0
	5① 介護におけるコミュニケーション			
	5② 介護におけるチームのコミュニケーション		3	0
	6 老化の理解	6	3	0
	6① 老化に伴うところとからだの変化と日常			
6② 高齢者と健康		3	0	
7 認知症の理解	6	1	0	
7① 認知症を取り巻く状況				
7② 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理		2	0	
7③ 認知症に伴うところとからだの変化と日常生活		2	0	
7④ 家族への支援		1	0	
8 障害の理解	3	0.5	0	
8① 障害の基礎的理解				
8② 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識		2	0	
8③ 家族の心理、かかわり支援の理解		0.5	0	
演習	9 ところとからだのしくみと生活支援技術	75	3	0
	9① 介護の基本的な考え方			
	9② 介護に関するところのしくみの基礎的理解		3	0
	9③ 介護に関するからだのしくみの基礎的理解		4	0
	9④ 生活と家事		3	0
	9⑤ 快適な居住環境整備と介護		3	0
	9⑥ 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護		6	0
	9⑦ 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護		12	0
	9⑧ 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護		6	0
	9⑨ 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護		6	0
	9⑩ 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護		6	0
	9⑪ 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護		6	0
	9⑫ 死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期介護		3	0
	9⑬ 介護過程の基礎的理解		6	0
9⑭ 総合生活支援技術演習	8	0		
講義	10 振り返り	4	3	0
	10① 振り返り			
	10② 就業への備えと研修修了後における継続的な研修		1	0

2. 受講生のカリキュラム 22 日間の進め方

第 1 日目	○ テキストを配布
第 2 日目	
第 3 日目	
第 4 日目	
第 5 日目	
第 6 日目	
第 7 日目	
第 8 日目	
第 9 日目	※第9回目を受講していない受講生は、第 10 回目以降の受講不可。
第 10 日目	※第10回目を受講していない受講生は、第 11 回目以降の受講不可。18:10 終了
第 11 日目	○ 演習授業開始
第 12 日目	
第 13 日目	
第 14 日目	
第 15 日目	
第 16 日目	
第 17 日目	
第 18 日目	
第 19 日目	○ 従業終了後、模擬試験(内容は修了評価試験と同じ)実施。16:00～模擬試験開始17:00 終了 ※第1回目～第19 回目の全てを受講していないと、第 20 回目以降の受講不可
第 20 日目	○ 総合生活支援技術演習の中で実技試験を実施、内容不十分の場合、補講あるいは再受講 ※第1回目～第 20 回目の全てを受講していないと、第 21 回目以降の受講不可
第 21 日目	○ 総合生活支援技術演習の中で実技試験を実施、内容不十分の場合、補講あるいは再受講 ※第1回目～第 21 回目の全てを受講していないと、第 22 回目以降の受講不可
第 22 日目	○ 振り返り授業後、修了評価試験(当日の担当講師と事務局で採点) ○ 卒業式

●講義について

- 介護職員初任者研修は、計 130 時間のカリキュラムとなります。【通学形式】をとっておりますので、全てのカリキュラムを22日間かけて実施していきます。
- 神奈川県定める要項に沿ってカリキュラムを作成しておりますので、『講義内容及び演習の実施方法(シラバス)』を参照し、講義してください。
※担当科目以外のシラバスも確認し、22日間一貫した流れができるように講義を実施していただきますよう、よろしくおねがいいたします。

●演習について

- 演習の内容については、シラバスを参照してください。時間が足りない場合などは、無理にやらせようとする受講生のけがや事故につながる可能性や、十分に学習できなかったという不安をおおることにもなるので、評価が必要なものに関してはデモンストレーションだけでもかまいません。
- 演習チェックリストについては、評価の一部が「C」以下になる場合は不合格になってしまうので、「C」になる状況がある時は、可能な限り当日中に「C」「D」評価の項目を中心に指導を行い、再テストを実施して合格できるように指導して下さい。受講生の能力上、合格基準に満たないと判断される場合は学校に相談して下さい。
※A：基本的な介護(介助)が的確にできる B：基本的な介護(介助)がおおむねできる
C：技術が不十分 D：まったくできない
- 事例の利用者(氏名、ADL 等を含め)を用いて、ロールプレイをしながら演習してください。総合生活支援技術演習(第 14・15 日目)のときには、利用者像が描けているようにしておいてください。
- 演習の授業中は同性同士で行うようにチーム分けを考慮するようお願いいたします。
※講師のデモンストレーション時、受講生同士の演習中セクハラにならないよう対応してください。
裁判訴訟に発展する事例が他校でありました。当事者にならないよう最新の注意を払ってください。

●その他

- 教科書はあくまで教材と認識し、教科書に縛られた授業にならないよう各講師がシラバスに沿って生徒にわかりやすく・楽しく学習できるよう創意工夫をして下さい。シラバスに変更がある場合はその都度連絡いたします。

3. 介護職員初任者研修カリキュラムと持ち物表

講義	科 目	テキスト	持ち物
第1回目	オリエンテーション ※1 番最初に受講する必要があります。 1(1)多様なサービスの理解 1(2)介護職の仕事内容や働く現場の理解 17:30終了	P.2～7 P.8～39	身分証明書(未提出の方)・持ち物表(本紙)・服装表 筆記用具・テキスト(2巻)を持ち帰る袋 テキスト第1巻
第2回目	2(1)人権と尊厳を支える介護	P.44～67	テキスト第1巻
第3回目	3(1)介護職の役割、専門性と多職種との連携 3(2)介護職の職業倫理 3(3)介護における安全の確保とリスクマネジメント 3(4)介護職の安全	P.84～101 P.102～105 P.106～117 P.118～129	テキスト第1巻
第4回目	4(1)介護保険制度 4(2)医療との連携とリハビリテーション	P.136～165 P.166～181	テキスト第1巻
第5回目	5(1)介護におけるコミュニケーション 5(2)介護におけるチームのコミュニケーション	P.218～247 P.248～263	テキスト第1巻
第6回目	6(1)老化に伴うこころとからだの変化と日常 6(2)高齢者と健康	P.268～295 P.296～327	テキスト第1巻
第7回目	7(1)認知症を取り巻く状況 7(2)医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 7(3)認知症にともなうこころとからだの変化と日常生活 7(4)家族への支援	P.334～337 P.338～365 P.366～379 P.380～385	テキスト第1巻
第8回目	4(3)障害者福祉制度及びその他の制度 8(1)障害の基礎的理解 8(2)障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識 8(3)家族の心理、かかわり支援の理解	P.182～208 P.390～399 P.400～441 P.442～447	テキスト第1巻
第9回目	9(1)介護の基本的な考え方 2(2)自立に向けた介護	2巻 P.2～9 1巻 P.68～79	テキスト第1巻、2巻
第10回目	9(2)介護に関するこころのしくみの基礎的理解 9(3)介護に関するからだのしくみの基礎的理解 18:10終了	P.10～21 P.22～61	テキスト第2巻

講義	科 目	テキスト	持ち物
第11回目	※演習授業開始 9(4)生活と家事 9(5)快適な居住環境整備と介護	P.66～91 P.92～115	※演習授業中の身だしなみについては「服装表」参照 テキスト第2巻・エプロン フェイスタオル(薄手のもの・雑巾作成用) ソーイングセット(縫い針1本、まち針4本、縫い糸) 布きれ、4つ穴ボタン
第12回目	9(11)睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	P.270～287	テキスト第2巻・エプロン フェイスタオル
第13回目	9(7)移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護(1)	P.134～141 P.148～155	テキスト第2巻・エプロン フェイスタオル
第14回目	9(7)移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護(2)	P.142～147 P.156～181	テキスト第2巻・エプロン フェイスタオル
第15回目	9(6)整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	P.116～133	テキスト第2巻・エプロン・長方形のフェイスタオル かぶりシャツ(トレーナーまたは長袖Tシャツ)1着 前開きシャツ1着(ゆったりサイズが望ましい) 大きめのズボン1着(ウエストがゴムのスウェットなど) ※着衣の上から着脱をするため、大きめの物をご用意ください。 前開きシャツ・ズボンの代わりに大きめパジャマ上下でも良い
第16回目	9(8)食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 ※当校にてお弁当を用意するので希望者は当日500円回収します	P.182～213	テキスト第2巻・エプロン ご飯とおかず数品(コンビニの幕の内弁当なども可) ※お弁当を当校で注文の方は持参の必要なし(注文者は400円) 置き鏡・飲み物(お茶または水)・コップ1個・スプーン1本 長方形のフェイスタオル1枚・曲がるストロー1本 歯ブラシ1本 アイマスク(目隠し用・大きめのハンカチ・バンダナでも可)
第17回目	9(10)排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	P.244～269	テキスト第2巻・エプロン 長方形のフェイスタオル2枚・使い捨て手袋(必要な方)
第18回目	※洗髪・足浴を行いますので、首回りのあいた服装で来てください。 9(9)入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	P.214～243	テキスト第2巻・エプロン 厚手の大きいバスタオル2枚・長方形のフェイスタオル5枚 45Lゴミ袋5枚・洗濯ばさみ(物干し竿に挟めるぐらいのもの)2個 ハンカチ1枚・滑り止めのない軍手(無理に持ってこなくてもOK)1組 輪ゴム2本 ヘアブラシ・ドライヤー(必要な方)・使い捨て手袋(必要な方) シャンプー(肌荒れ等を起こしやすい方)

講義	科 目	テキスト	持ち物
第19回目	<p>※第1回目～第19回目の全てを受講していないと、第20回目以降の受講不可</p> <p>9(12)死にゆく人に関するところとからだのしくみと終末期介護</p> <p>9(13)介護過程の基礎的理解</p> <p>※授業は9:30～12:50</p> <p>※授業終了後、模擬試験(昼休憩なし) 15:50終了</p>	<p>P.288～300</p> <p>P.316～323</p>	テキスト第2巻・エプロン
第20回目	<p>※第1回目～第20回目の全てを受講していないと、第21回目以降の受講不可</p> <p>9(13)介護過程の基礎的理解(1)</p> <p>9(14)総合生活支援技術演習(1)</p>	<p>P.316～323</p> <p>P.324～347</p>	テキスト第2巻・エプロン
第21回目	<p>※第1回目～第21回目の全てを受講していないと、第22回目以降の受講不可</p> <p>9(13)介護過程の基礎的理解(2)</p> <p>9(14)総合生活支援技術演習(2)</p>	<p>P.316～323</p> <p>P.324～347</p>	<p>テキスト第2巻・エプロン</p> <p>フェイスタオル</p>
第22回目	<p>10(1)振り返り</p> <p>10(2)就業への備えと研修修了後における継続的な研修</p> <p>※授業終了後、修了評価筆記試験(15:50終了)</p> <p>16:00～卒業式(先生もご参加ください)</p>	P.350～355	テキスト第2巻

4 演習の留意事項と、講師・補助講師へのお願い

演習指導の留意点

- 受講生全員が介護者役を実践してください
- 受講生全員が利用者役を体験するようにして下さい(体調不良や疾病によりできない場合を除く)。利用者役を体験することの価値を伝え、受講生自身が自ら「やってみたい」と思えるように指導をお願いします
- 受講生から、本カリキュラム外の質問があった場合は、担当講師の裁量で指導をお願いします
- 他講師の指導についての批判をせず、様々な介助方法があることを押さえてください
※自身の介護感の押し付けにならないよう、発言には十分に配慮してください。
- 介助方法が様々になる場合は、その根拠を確認し、根拠をおさえておけば、実技評価も大丈夫であることを伝えてください
- トイレの数に限りがありますので、**演習中はトイレに自由に行っても大丈夫とアナウンス**して頂くようご配慮よろしくをお願いします。また、休憩時間内にトイレが使用できない場合も考えられますので、休憩時間の調整などのご配慮もよろしくお願い致します。

メイン講師へのお願い

- 授業で使用する資料や配布物がある場合は、担当されるコース開始前に事務局までメールでデータを送って下さい。 メールアドレス  :
- プロジェクター・DVD 等使用される場合は、事前にご連絡をお願いいたします。
- 講師も含め、ゴミは各自持ち帰りをしていただいておりますので、受講生へのアナウンスと、ご協力をお願いします。授業で出たゴミ(手拭きのペーパータオル。入浴の授業のビニール込み等)はこちらで処分しております。
- 校内は完全禁煙となっております。喫煙をされる方は、所定の喫煙可能な場所をお願いいたします。市区町村の喫煙ルールに従って各自責任を持って対応して下さい。ルールが守れていないと判断された場合には、即刻退校処分という厳しい処置をとっておりますので、講師の皆様方もご理解とご協力をお願いいたします。
- 受講生の引き抜き、事業所への紹介は、固く禁じております。もし、発覚した場合は、業務委託契約にもとづき、契約の解除、訴訟に至る場合も有りますのでご承知ください。紹介してほしい場合は、弊社を通してください。
- まれに、受講生から「うちの事業所で講義をしてほしい」等の依頼がある場合がございます。そうした場合も、必ず弊社を通すようにしてください。弊社から派遣する形を取らせて頂きます。
- 授業前には、その日の進め方を補助講師と確認し、補助講師への指示・指導をお願いいたします。
- 当日、前日に急な体調不良や急用等で授業が担当できない事態が発生しましたら、大至急下記までご連絡ください。

補助講師へのお願い

- 補助講師はあくまでもメイン講師のサポート役であることを自覚してください。
- 講師によって指導方法や伝え方は異なるものです。その日のメイン講師の指示・指導に従ってください。当日の指導内容、方法についてはメイン講師に必ず確認し、指導方法を統一してください。指導方法が異なると、受講生が混乱し不安になります。
- 授業前には、その日の進め方をメイン講師に確認し、必要物品の準備・片付けをお願いいたします。
- いろいろな講師の指導方法を参考にしながら、自分なりの授業展開・指導方法を見出し、次回からは講師を担当できるように心構えをしておいてください。
- 当日、前日に急な体調不良や急用等で授業が担当できない事態が発生しましたら、大至急下記までご連絡ください。

急連絡先

○学校長 ○○携帯:090- ○教務責任者 ○○携帯:090-

5. 時間割と、日割りカリキュラム

	通学 1 日目		通学 2 日目		通学 3 日目		通学 4 日目	
OR	9:30~10:00							
1時限	10:00~11:00	1時限	9:30~10:30	1時限	9:30~10:30	1時限	9:30~10:30	
2時限	11:10~12:10	2時限	10:40~11:40	2時限	10:40~11:40	2時限	10:40~11:40	
昼休み	12:10~13:00	3時限	11:50~12:50	3時限	11:50~12:50	3時限	11:50~12:50	
3時限	13:00~14:00	昼休み	12:50~13:40	昼休み	12:50~13:40	昼休み	12:50~13:40	
4時限	14:10~15:10	4時限	13:40~14:40	4時限	13:40~14:40	4時限	13:40~14:40	
5時限	15:20~16:20	5時限	14:50~15:50	5時限	14:50~15:50	5時限	14:50~15:50	
6時限	16:30~17:30	6時限	16:00~17:00	6時限	16:00~17:00	6時限	16:00~17:00	
	通学 5 日目		通学 6 日目		通学 7 日目		通学 8 日目	
1時限	9:30~10:30	1時限	9:30~10:30	1時限	9:30~10:30	1時限	9:30~10:30	
2時限	10:40~11:40	2時限	10:40~11:40	2時限	10:40~11:40	2時限	10:40~11:40	
3時限	11:50~12:50	3時限	11:50~12:50	3時限	11:50~12:50	3時限	11:50~12:50	
昼休み	12:50~13:40	昼休み	12:50~13:40	昼休み	12:50~13:40	昼休み	12:50~13:40	
4時限	13:40~14:40	4時限	13:40~14:40	4時限	13:40~14:40	4時限	13:40~14:40	
5時限	14:50~15:50	5時限	14:50~15:50	5時限	14:50~15:50	5時限	14:50~15:50	
6時限	16:00~17:00	6時限	16:00~17:00	6時限	16:00~17:00	6時限	16:00~17:00	
	通学 9 日目		通学 10 日目		通学 11 日目		通学 12 日目	
1時限	9:30~10:30	1時限	9:30~10:30	1時限	9:30~10:30	1時限	9:30~10:30	
2時限	10:40~11:40	2時限	10:40~11:40	2時限	10:40~11:40	2時限	10:40~11:40	
3時限	11:50~12:50	3時限	11:50~12:50	3時限	11:50~12:50	3時限	11:50~12:50	
昼休み	12:50~13:40	昼休み	12:50~13:40	昼休み	12:50~13:40	昼休み	12:50~13:40	
4時限	13:40~14:40	4時限	13:40~14:40	4時限	13:40~14:40	4時限	13:40~14:40	
5時限	14:50~15:50	5時限	14:50~15:50	5時限	14:50~15:50	5時限	14:50~15:50	
6時限	16:00~17:00	6時限	16:00~17:00	6時限	16:00~17:00	6時限	16:00~17:00	
		7時限	17:10~18:10					
	通学 13 日目		通学 14 日目		通学 15 日目		通学 16 日目	
1時限	9:30~10:30	1時限	9:30~10:30	1時限	9:30~10:30	1時限	9:30~10:30	
2時限	10:40~11:40	2時限	10:40~11:40	2時限	10:40~11:40	2時限	10:40~11:40	
3時限	11:50~12:50	3時限	11:50~12:50	3時限	11:50~12:50	3時限	11:50~12:50	
昼休み	12:50~13:40	昼休み	12:50~13:40	昼休み	12:50~13:40	昼休み	12:50~13:40	
4時限	13:40~14:40	4時限	13:40~14:40	4時限	13:40~14:40	4時限	13:40~14:40	
5時限	14:50~15:50	5時限	14:50~15:50	5時限	14:50~15:50	5時限	14:50~15:50	
6時限	16:00~17:00	6時限	16:00~17:00	6時限	16:00~17:00	6時限	16:00~17:00	

	通学 17 日目		通学 18 日目		通学 19 日目		通学 20 日目
1時限	9:30～10:30	1時限	9:30～10:30	1時限	9:30～10:30	1時限	9:30～10:30
2時限	10:40～11:40	2時限	10:40～11:40	2時限	10:40～11:40	2時限	10:40～11:40
3時限	11:50～12:50	3時限	11:50～12:50	3時限	11:50～12:50	3時限	11:50～12:50
昼休み	12:50～13:40	昼休み	12:50～13:40	昼休み	12:50～13:40	昼休み	12:50～13:40
4時限	13:40～14:40	4時限	13:40～14:40	4時限	13:40～14:40	4時限	13:40～14:40
5時限	14:50～15:50	5時限	14:50～15:50	5時限	14:50～15:50	5時限	14:50～15:50
6時限	16:00～17:00	6時限	16:00～17:00			6時限	16:00～17:00

	通学 21 日目		通学 22 日目
1時限	9:30～10:30	1時限	9:30～10:30
2時限	10:40～11:40	2時限	10:40～11:40
3時限	11:50～12:50	3時限	11:50～12:50
昼休み	12:50～13:40	昼休み	12:50～13:40
4時限	13:00～14:00	4時限	13:40～14:40
5時限	14:50～15:50	修了試験	14:50～15:50
6時限	16:00～17:00		

1 日目

1 職務の理解（テキスト第1巻）

1（1）多様なサービスの理解（P2～7）

1（2）介護職の仕事内容や働く現場の理解（P8～39）

時間 目安	講義内容及び演習の実施方法
<p>1 時限</p> <p>2 時限</p> <p>3 時限</p> <p>(昼休憩)</p> <p>4 時限</p> <p>5 時限</p> <p>6 時限</p> <p>終了時刻 17:30</p>	<p>1 職務の理解</p> <p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修に先立ち、これからの介護職が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。 <p>《講義内容》</p> <p>1（1）多様なサービスの理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修課程全体（130時間）の構成と各研修科目（10科目）相互の関連性や全体像を、あらかじめイメージできるようにする ・介護保険による居宅サービスの種類と、サービスが提供される場の特性を学習する ・介護保険による施設サービスの種類と、サービスが提供される場の特性を学習する ・介護保険外のサービスの種類と、サービスが提供される意義や目的を学習する <p>1（2）介護職の仕事内容や働く現場の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居宅、施設などの多様な現場におけるサービスの内容や利用者像を通じて、介護職の仕事内容や働く現場の具体的なイメージをもつことができるようにする。 ・ケアマネジメントを通じて、介護サービス提供に至るまでの流れを学習する。 ・他職種とのチームアプローチの必要性や、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との具体的な連携方法を学習する。 <p>映像資料使用(70分)※教科書1巻付属「職務の理解」</p> <p>《演習》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居宅サービス・施設サービス・介護保険外サービスの長所・短所についてグループディスカッションを行い、サービスについての理解を深める。
	<p>【必要物品】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクター ・DVD プレーヤー ・職務の理解 DVD <p>※上記、各校スタッフにて準備</p>

2 日目

2 介護における尊厳の保持・自立支援（テキスト第1巻）

2（1）人権と尊厳を支える介護（P44～67）

時間 目安	講義内容及び演習の実施方法
1 限目	2 介護における尊厳の保持・自立支援 【ねらい】 ・介護職が利用者の尊厳ある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するに当たっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解している。
2 限目	《講義内容》 2（1）人権と尊厳を支える介護 ・人が有する基本的権利について概説し、介護を必要とする状態となっても、個人として尊重され、尊厳のある暮らしを営む権利を持つことを学習する。「尊厳」という言葉を自分たちなりにわかりやすい言葉に置き換えて認識できるようにする。 ※P44「日本国憲法第13条」テストに出る
3 限目 (昼休憩)	・人権と尊厳を守る上での基本的な価値である、アドボカシー、エンパワメントの視点、「役割」を実感できる支援、プライバシーの保護などについて学習する。 ※P50「エンパワメント（ストレングスに着目）」テストに出る ・ICFについて概説し、介護分野における意義や、活用方法などについて学習する。 ・利用者の生活の質を向上させるための、QOLの考え方について学習する。 ・ノーマライゼーションの考え方について学習する。
4 時限	・人権を侵害する行為としての高齢者「虐待」と「身体拘束」について説明し、法的根拠としての高齢者虐待防止法に触れ、高齢者の養護者も支援することの重要性について学習する。
5 時限	・個人の権利を守る制度である、個人情報保護法、成年後見制度、日常生活自立支援事業の概要について学習する。
6 時限	《演習》 ・「虐待」「身体抑制」につながってしまうケアについて考え、どのような対応が求められるのかグループでディスカッションして気付かせ理解を深める
終了時刻 17:00	

3 日目

3 介護の基本（テキスト第1巻）

- 3（1）介護職の役割、専門性と多職種との連携（P84～101）
- 3（2）介護職の職業倫理（P102～105）
- 3（3）介護における安全の確保とリスクマネジメント（P106～117）
- 3（4）介護職の安全（P118～129）

時間 目安	講義内容及び演習の実施方法
1 限目	<p>3 介護の基本 【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。 ・介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉えることができる。 <p>《講義内容》</p> <p>3（1）介護職の役割、専門性と多職種との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護環境の特徴の理解として訪問介護と施設介護サービスの違いや特徴を確認し、地域包括ケアの方向性について学習する。 ・介護の専門性として「重度化防止・遅延化の視点」「利用者主体の支援姿勢」「自立した生活を支えるための援助」「根拠のある介護（介護過程の展開）」「チームケアの重要性（介護職同士のチーム、多職種とのチーム）」について学習する。
2 限目	<p>※P93「介護職同士のチームケアの重要性」テストに出る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護に関わる職種に対しての理解を深める為に、多職種連携の意義を概説し、異なる専門性を持つ多職種の役割、視点を確認することで、互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供や連携ができることを学習する <p>3（2）介護職の職業倫理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門職の倫理の意義について概説し、介護の倫理（介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等）について学習する。
3 限目	<p>※P104「高い倫理性と社会的責務」テストに出る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職としての社会的責任を踏まえ、プライバシーの保護と尊重について学習する。 <p>《演習》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・尊厳の保持やプライバシーの確保を妨げる不適切な対応を挙げさせ、適切な対象方法をグループワークで確認し、他グループと共有する。
(昼休憩)	<p>3（3）介護における安全の確保とリスクマネジメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リスクマネジメントについて概説し、リスク回避と尊厳の保持の関係について考えさせ、事故予防、安全対策の実際をさまざまな場面から確認する。
4 時限	<p>※P107「利用者の生活を支えるチームとリスクマネジメント」テストに出る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に事故が発生してしまった際、どのような流れで対応していくのか事例を用いて確認する。 ・事故報告の役割・意義を概説し、正しく情報が共有されることで、リスクマネジメントの強化につながることを学習する。 ・感染対策として感染の原因と経路(感染源の排除、感染経路の遮断)、「感染」に対する正しい知識を学習する
5 時限	<p>※P116「宿主（人間）の抵抗力の向上」テストに出る</p> <p>3（4）介護職の安全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護の特徴をふまえて、介護職自身の健康管理の必要性について学習する。 ・介護職に起こりやすいところとからだの病気や障害について学習する。 ・介護職自身の健康管理の方法（病気や障害の予防と対策）について学習する。
6 時限	<p>※P122「燃え尽き症候群（バーンアウト症候群）」テストに出る</p> <p>《演習》</p>
終了時刻 17:00	<ul style="list-style-type: none"> ・講師の実演に基づき、手洗い、うがいの方法を全員でシミュレーションする。
<p>【必要物品】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無し 	

4 日目

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（テキスト第1巻）

4（1）介護保険制度（P136～165）

4（2）医療との連携とリハビリテーション（P166～181）

時間 目安	講義内容及び演習の実施方法
<p>1 限目</p> <p>2 限目</p> <p>3 限目</p> <p>(昼休憩)</p> <p>4 時限</p> <p>5 時限</p> <p>6 時限</p> <p>終了時刻 17:00</p>	<p>4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携</p> <p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護保険制度や障害福祉制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務についてその概要のポイントを列挙できる。 <p>《講義内容》</p> <p>4（1）介護保険制度</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護保険制度の創設の背景（ケアマネジメント手法の導入）と目的を踏まえ、現在までの動向（予防重視型システムへの転換、地域包括支援センターの設置、地域包括ケアシステムの推進など）について学習する。 <p>※P140「介護保険制度の基本理念の中でとりわけ重要な点」テストに出る</p> <ul style="list-style-type: none"> 仕組み基礎的理解として、保険制度としての基本的仕組みを概説し、給付の仕組み（介護給付とその種類、予防給付）、要介護認定の手順について学習する。 指定介護サービス事業者の指定について学習する。 <p>《講義内容》</p> <p>4（2）医療との連携とリハビリテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護職と医療行為の実情と経過について学習する。 <p>※P167「これまでグレーゾーンだった医行為」テストに出る</p> <p>《演習》</p> <p>医行為を行ってはいけない理由を考え、医行為と医行為でないものについてリスト化し理解を深める。</p> <p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> 在宅および施設における介護職と看護職の役割・連携について学習する。 リハビリテーションの理念と考え方について学習する <p>※P178「リハビリテーションの4つの領域」テストに出る</p>
<p>【必要物品】</p> <ul style="list-style-type: none"> 無し 	

5 日目

5 介護におけるコミュニケーション技術（テキスト第1巻）

5（1）介護におけるコミュニケーション（P218～247）

5（2）介護におけるチームのコミュニケーション（P248～263）

時間 目安	講義内容及び演習の実施方法
<p>1 時限</p> <p>2 時限</p> <p>3 時限</p> <p>(昼休憩)</p> <p>4 時限</p> <p>5 時限</p> <p>6 時限</p> <p>終了時刻 17:00</p>	<p>5 介護におけるコミュニケーション技術 【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解している。 <p>《講義内容》</p> <p>5（1）介護におけるコミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割について学習する。 ・言語的コミュニケーションの特徴および、非言語的コミュニケーションの特徴について学習する。 ・傾聴、共感、受容などのコミュニケーションの技法や道具を用いた言語的コミュニケーションの技法について学習する。 ・利用者の思いを把握すること、意欲低下の要因を考えること、利用者の感情に共感することなどの、利用者とのコミュニケーションの実際について学習する。 <p>※P232「need→want→hopeの展開」テストに出る P235「バイスティックの7原則」テストに出る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族の心理的理解を踏まえ、家族へのいたわりと励まし、信頼関係の形成、自分の価値観で家族の意向を判断し避難することがないように対応することの大切さなど、家族とのコミュニケーションの実際について学習する。 ・利用者、家族の思いを踏まえ、アセスメントの手法と、ニーズとデマンドとの違いについて学習する。 <p>《演習》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な事例（認知症など）を用いて、利用者や家族が抱きやすい葛藤や介護における相談援助技術の重要性をグループで話し合い、介護職としてもつべき視点を分かち合う。 <p>5（2）介護におけるチームのコミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護における記録の意義と目的を理解し、書き方の留意点などについて学習する。 「介護に関する記録の種類」「5W1H等の記録の書き方」「ヒヤリハット報告書」等について解説する。 <p>※・P251「5W1H」 ・P254「ヒヤリハット記録」テストに出る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告・連絡・相談 <p>チームのコミュニケーションに必要な報告・連絡・相談の意義と目的を理解し、具体的な方法について学習する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションをうながす環境 <p>会議(カンファレンスやミーティング等)の意義と目的を理解し、それぞれの具体的な進め方について学ぶ。</p> <p>《演習》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例を用いて、実際に記録（支援経過）を作成し、記載方法を学習する。
<p>【必要物品】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無し 	

6 日目

6 老化の理解 (テキスト第1巻)

6 (1) 老化に伴うこころとからだの変化と日常 (P268~295)

6 (2) 高齢者と健康 (P296~327)

時間 目安	講義内容及び演習の実施方法
<p>1 時限</p> <p>2 時限</p> <p>3 時限</p> <p>(昼休憩)</p> <p>4 時限</p> <p>5 時限</p> <p>6 時限</p> <p>終了時刻 17:00</p>	<p>6 老化の理解 【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。 <p>《講義内容》</p> <p>6 (1) 老化に伴うこころとからだの変化と日常</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴について、防衛反応 (反射) の変化、喪失体験などを踏まえて学習する。 <p>※P273「喪失体験」テストに出る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老化に伴う、身体的機能の変化と日常生活への影響について学習する。 ・咀嚼機能の低下、筋・骨・関節の変化、体温維持機能の変化など、生理的側面の知識について学習する。 <p>※P284「外呼吸・内呼吸」テストに出る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神機能の変化と日常生活への影響について学習する。 <p>《演習》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで老化について社会的、身体的、精神的、知的側面から話し合い、老化に伴う変化を理解することの重要性と継続的に学ぶ必要性への気づきを促す (例：退職による社会的立場の喪失感、運動機能の低下による無力感や羞恥心、感覚機能の低下によるストレスや疎外感、知的機能の低下による意欲の低下等)。 <p>6 (2) 高齢者と健康</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の多くにみられる症状や訴えがどのような疾病から起こるかなど、その特徴について学習する [慢性、複数の疾患、痛み (腹痛、筋肉、骨、関節)、浮腫、便秘、下痢、誤嚥]。 <p>※P298「高齢者は複数の疾患がある」テストに出る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者に多い病気の原因や特徴、その病気をかかえる高齢者の生活上の留意点について学習する。 <p>[生活習慣病、運動系の病気、知覚系の病気、呼吸器の病気、腎・泌尿器の病気、消化器の病気、循環器の病気、脳・神経、精神の病気、高齢者がかかりやすい感染症]</p> <p>※P306「三大生活習慣病」テストに出る</p>
<p>【必要物品】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無し 	

7 日目

7 認知症の理解（テキスト第1巻）

- 7（1） 認知症を取り巻く環境（P334～337）
- 7（2） 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理（P338～365）
- 7（3） 認知症にともなうところとからだの変化と日常生活（P366～379）
- 7（4） 家族への支援（P380～385）

時間 目安	講義内容及び演習の実施方法
1 時限	<p>7 認知症の理解 【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断基準となる原則を理解している。 <p>《講義内容》</p> <p>7（1） 認知症を取り巻く環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症ケアの理念について学習する（パーソンセンタードケア）。 ・認知症ケアの視点について学習する（できることに着目する視点）。 <p>※P334「認知症という障害に加え、不適切なケアという障害も負う事になる」テストに出る</p>
2 時限	<p>7（2） 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老化のしくみと脳の変化を学び、認知症の原因を学習する。 <p>[認知症とは、認知症と物忘れの違い]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症に類似した症状をもつ疾病について学ぶ。
3 時限 (昼休憩)	<p>[せん妄、うつ病など]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルツハイマー型認知症、血管性認知症をはじめとした認知症のおもな原因疾患の病態、症状について学ぶ。 <p>[アルツハイマー型認知症、血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭即答型認知症など]</p> <p>※P339「前頭葉の後方部は動作のコントロールも行なっている」テストに出る</p> <p>P352「アルツハイマー型認知症・見当識障害」テストに出る</p>
4 時限	<p>7（3） 認知症にともなうところとからだの変化と日常生活</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の中核症状および行動・心理症状（BPSD）について学習する。 ・不適切なケアと、生活環境の中で改善を図る視点について学習する。 ・認知症の利用者への対応を学習する。 <p>（失敗しないような状況をつくる、コミュニケーションの大切さ、相手の様子・表情・視線・姿勢などから気持を推察する、認知症の進行に合わせたケア）</p> <p>※P367「記名力、保持力、想起力」テストに出る。</p> <p>P372「認知症と環境」テストに出る</p>
5 時限	<p>《演習》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の方への接し方について課題を出し、グループで話し合い、他のグループと意見を共有し、介護職として認知症を理解することの重要性への気づきを促す。 ・認知症の利用者の心理・行動の実際を実感できるよう事例で示し、グループで話し合い、他グループと意見を共有する。
6 時限	<p>7（4） 家族への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族介護者の介護の大変さについて理解し、レスパイトケアの重要性を学習する。 ・家族とは助けるだけの存在ではなく、ともに認知症の人を支えていくパートナーであることを学習する。
終了時刻 17:00	<p>[リロケーションダメージ、レスパイトケアの種類]</p> <p>※P382「レスパイトケアとは」テストに出る</p>
<p>【必要物品】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無し 	

8 日目

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（テキスト第1巻）

4（3） 障害福祉制度およびその他制度（P182～208）

8 障害の理解（テキスト第1巻）

8（1） 障害の基礎的理解（P390～399）

8（2） 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識（P400～441）

8（3） 家族の心理、かかわり支援の理解（P442～447）

時間 目安	講義内容及び演習の実施方法
1 時限 2 時限 3 時限 (昼休憩)	<p>4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 【ねらい】 ・介護保険制度や障害福祉制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務についてその概要のポイントを列挙できる。</p> <p>《講義内容》 4（3） 障害福祉制度およびその他制度 ・障害者福祉制度における障害の概念について、その歩みをふまえて学習する。 [障害の概念。自立と自律]</p> <p>2 時限 ・障害者福祉制度の基本的なしくみについて学習する。 [介護給付・訓練等給付の申請から支給決定まで]</p> <p>3 時限 ※P194「障害支援区分認定」・P196「応能負担」テストに出る ・個人の権利を守る制度の概要について学習する [個人情報保護法、成年後見制度、日常生活自立支援事業]</p>
4 時限 5 時限	<p>8 障害の理解 【ねらい】 ・障害福祉の基本的な考え方、介護における基本的な考え方について理解している</p> <p>《講義内容》 8（1） 障害の基礎的理解 ・国際障害分類（ICIDH）と国際生活機能分類（ICF）の考え方について学習する。 ・障害福祉の基本理念（ノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョン）について学習する。</p> <p>※・P392「障害者総合支援法（2013）」・P396「医学モデル・社会モデルの統合」テストに出る</p> <p>8（2） 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識 ・身体障害について学習する [視覚障害、聴覚、平衡障害、音声・言語・咀嚼障害、肢体不自由、内部障害]</p> <p>・知的障害について学習する ・精神障害について学習する [統合失調症・気分(感情障害)、依存症などの精神疾患、高次脳機能障害、広汎性発達障害 学習障害・注意欠陥多動性障害などの発達障害]</p>
6 時限 終了時刻 17:00	<p>・発達障害、難病について学習する</p> <p>※P415「心臓機能障害のある人の心理的理解」、P430「代表的な精神疾患」テスト出る</p> <p>8（3） 家族の心理、かかわり支援の理解 ・家族が障害を理解し、受容するための支援について学習する。 ・介護負担の軽減の方法について学習する。 ・家族のとらえ方および支援（レスパイトサービス）について学習する。</p> <p>※、P442「家族支援の意味するところ」テストに出る</p> <p>《演習内容》 障害の受容のプロセスと基本的な介護の考え方についてグループワークを行い、互いに違う価値観などを共有し、介護職の役割を確認する</p>
【必要物品】	・無し

9 日目

9 こころとからだのしくみと生活支援技術（テキスト第2巻）

9（1） 介護の基本的な考え方（P2～9）

2 介護における尊厳の保持・自立支援（テキスト第1巻）

2（2） 自立に向けた介護（P68～79）

時間 目安	講義内容及び演習の実施方法
<p>1 時限</p> <p>2 時限</p> <p>3 時限</p> <p>(昼休憩)</p> <p>4 時限</p> <p>5 時限</p> <p>6 時限</p> <p>終了時刻 17:00</p>	<p>9 こころとからだのしくみと生活支援技術 【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 ・ 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。 <p>《講義内容》</p> <p>9（1） 介護の基本的な考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 理論に基づく介護（ICF の視点に基づく生活支援、我流介護の排除）の必要性について学習する。 <p>※介護とは何か？介護の見方、考え方の変化 ※P6「根拠にもとづいた介護の実践」テストに出る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 法的根拠に基づく介護について学習する。 ※介護福祉士の定義のあゆみ <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 求められる介護者像をグループディスカッションし、その内容を整理して発表する。 <p>2 介護における尊厳の保持・自立支援 【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護職が利用者の尊厳ある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するに当たっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解している。 <p>2（2） 自立に向けた介護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護における自立とは何かを学習する [自立・自律支援、残存能力の活用、個別ケア、意欲を高める支援、重度化防止] <p>※P69「自立(自律)とは、他者の援助を受けるにしても、受けないにしても、自分の行動に責任を追うこと」テストに出る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護予防の考え方を学習する。 [介護予防と介護保険、廃用症候群の予防と自立支援] <p>《演習》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な事例を用いて利用者の残存機能を活用することを、グループディスカッションを通じて気づかせ、そのことが利用者の自立支援や重度化の防止・遅延化にも資することを理解させる
<p>【必要物品】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 無し 	

10日目

9 こころとからだのしくみと生活支援技術（テキスト第2巻）

9（2） 介護に関するこころのしくみの基礎的理解（P10～21）

9（3） 介護に関するからだのしくみの基礎的理解（P22～61）

時間 目安	講義内容及び演習の実施方法
<p>1 時限</p> <p>2 時限</p> <p>3 時限 (昼休憩)</p> <p>4 時限</p> <p>5 時限</p> <p>6 時限</p> <p>7 時限</p> <p>終了時刻 18:10</p>	<p>9 こころとからだのしくみと生活支援技術 【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 ・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。 <p>《講義内容》</p> <p>9（2） 介護に関するこころのしくみの基礎的理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感情と意欲の基礎知識について学習する。 [学習と記憶の基礎知識、感情と意欲の基礎知識（内発的・外発的動機付け）] ・自己概念と生きがいについて学習する [自己概念の視点、人間の持つ欲求（マズロー）] ※P17「人間の持つ欲求（マズロー）」テストに出る ・老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因について学習する [不適応状態を緩和する心理、適応規制、施設への入所・入居による環境の変化と心理] [こころの持ち方が行動に与える影響、からだの状態がこころに与える影響] 《演習》 ・人は「内発的・外発的動機」が発生することで「心が動き」、「言動が起きる」というメカニズムを解説し、対象者のその言動は何から来るものなのか考えるグループワークを行う。 例）フロア内を一人歩きしている。急に椅子から立ち上がる。ソワソワした様子 etc <p>9（3） 介護に関するからだのしくみの基礎的理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人体の各部の名称と動きに関する基礎知識について学習する。 [生命の維持・恒常の仕組み（体温、呼吸、脈拍、血圧）人体各部名称] ※P27「収縮期血圧、拡張期血圧」テストに出る ・骨・関節・筋肉に関する基礎知識について学習する。 [骨、関節、筋肉の働き、ボディメカニクスの活用] ・中枢神経系と体性神経に関する基礎知識について学習する [中枢神経と末梢神経、体性神経と自律神経] ・自律神経と内部器官に関する基礎知識について学習する [感覚器、呼吸器、消化器、泌尿器、内分泌、生殖器、循環器、血液] ※こころとからだを一体的に捉える ※利用者の様子の普段との違いに気づく視点 《演習》 ・バイタルサインチェックの測り方を演習する。 体温・脈拍・呼吸・血圧。
<p>【必要物品】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無し 	

11 日目

9 こころとからだのしくみと生活支援技術（テキスト第2巻）

9（4）生活と家事（P66～91）

9（5）快適な居住環境整備と介護（P92～115）

時間 目安	講義内容及び演習の実施方法
1 時限	<p>《講義内容》</p> <p>9（4）生活と家事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活を継続していくための家事の重要性について学習する。 ・家事援助（調理、洗濯、掃除などの援助、ともに行う介護の視点）は利用者にとってどのような意味があるのかを学習する。
2 時限	<p>※P68「家事援助は経験だけでは適切な援助は行えない」テストに出る</p> <p>P69「利用者とともに行う」テストに出る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家事援助とは何かについて学習する。
3 時限 (昼休憩)	<p>《演習内容》</p> <p>演習 1 雑巾作り、ボタン付け</p>
4 時限	<p>《講義内容》</p> <p>9（5）快適な居住環境整備と介護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心して快適に生活するために必要な環境の整備とは何かについて学習する。 ・住まいにおける安心・快適な室内環境の確保の仕方について学習する。 <p>[WHO が提示する「快適で健康的な居住環境」について確認する]</p> <p>[自己の種類と防止の為の物理的配慮について確認する]</p>
5 時限	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や障害のある人が生活するなかで、住宅改修や福祉用具を利用する意味や視点を学習する。 <p>[居場所の条件「物理的」「心理的」「社会的」について確認する]</p>
6 時限	<p>※P94「居住環境を整えることはQOLを高め、介護負担軽減にもなる」テスト出る</p> <p>演習 2 車椅子自走での開戸の開閉</p> <p>演習 3 3モーターベッド上でのギャッジアップ、ダウンにおける身体への影響確認</p>
終了時刻 17:00	<p>《演習の留意点》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男性と女性の組み合わせに考慮し、演習中もセクハラに注意する ・針の本数を確認させ、紛失の無いようする ・ヘッドアップ、フットアップの際に手などの挟み込みが無いように気を付ける <p>《禁止事項》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車椅子の乗り降りには必ずフットサポートをあげて、ブレーキをかけて行う ・床に膝をつく <ul style="list-style-type: none"> ・靴を脱いだまま歩く ・床に物を置く <ul style="list-style-type: none"> ・ベッドのコードを踏む ・命令口調の声かけ <ul style="list-style-type: none"> ・「ベッド柵」NG → 「サイドレール」で統一 ※柵という表現は身体拘束を連想する為不適切
<p>【演習必要物品】</p> <p>演習 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェイスタオル（薄手のもの・雑巾作成用） ・ソーイングセット（縫い針1本、まち針4本、縫い糸） <p>布きれ、4つ穴ボタン</p> <p>演習 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車椅子 ・2M程度のロープ <p>演習 3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3モーターベッド（シーツは講師対応でつけておく） 	

12 日目

9 ころとからだのしくみと生活支援技術（テキスト第2巻）

9（11） 睡眠に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護（P270～287）

時間 目安	講義内容及び演習の実施方法
1 時限	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・睡眠の必要性と、睡眠に関するころとからだのしくみを学習する。 ・安眠のための環境の整備（温度や湿度、光、音、よく眠るための寝室）と介護の工夫（安楽な姿勢・褥瘡予防）について学習する。
2 時限	<ul style="list-style-type: none"> ・快い睡眠を阻害する要因の理解と支援方法を学習する。 <p>※P273「レム睡眠とノンレム睡眠の周期」テストに出る</p>
3 時限	<p>《演習内容》</p> <p>※膝を曲げ、支持規定面を確保した姿勢で行うよう指導する（腰痛防止）。</p> <p>演習1 空きベッドでのベッドメイキング（2巻・P.275～P.277参照）</p>
(昼休憩) 4 時限	<ul style="list-style-type: none"> ・ベッドの動かし方、ブレーキの掛け方 ※車輪は「ハの字」になるようにしブレーキをかける ※配線の巻き込みに注意する。 ・シーツの畳み方 ※縦に半分⇨さらに縦に半分⇨ヘムを内側に2つ折り⇨さらに2つ折り⇨ヘムを隠すようにさらに2つ折りで完了
5 時限	<ul style="list-style-type: none"> ・枕カバーの入れ方 ・ベッドメイキング（三角コーナー） ※三角は折り返したシーツが一直線に重なり、綺麗な三角ができるように指導する。 ※四角コーナーはデモのみ ※ベッドの各部の名称、操作説明、サイドレール取扱方、役割について解説する
6 時限	<p>演習2 臥床している状態でのシーツ交換（2巻・P.275～P.277参照）</p> <ul style="list-style-type: none"> ※事例1の利用者を想定（体調が悪い国分寺さん）（側臥位には自分でなれる想定） ※一人で行う。防水シーツも使用 ※ベッド上の落屑や髪の毛などのゴミを飛散させない ※臥床している方がいる時は、ベッドの頭側を通らない。
終了時刻 17:00	<p>《演習の留意点》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男性と女性の組み合わせに考慮し、演習中もセクハラに注意する ・シーツの破れ（指や爪が引っかからない様に。腕時計等は外す） ・介助者の初動を促し、初動に合わせた介助ができるように指導する。 ・ボディメカニクスを意識させ、腰を痛めない様に姿勢を確認（パワーポジション） （足先がベッド下のフレームに入り込み過ぎていると、前傾が強くなり腰痛の原因となる） ・ベッドを初めて利用するのでキャスターにロックが掛かっているか確認 （有人の状態で行うシーツ交換で特に注意） ・ヘッドアップ、フットアップの際に手などの挟み込みが無いように気を付ける ・対面式の側臥位の時には転落防止の為に介護者がベッドから離れすぎてないか確認する事 <p>《禁止事項》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・床に膝をつく ・シーツのシワを手のひらで伸ばす ・命令口調の声かけ ・手アイロン ・靴を脱いだまま歩く ・ベッドのコードを踏む ・手足を上から掴む（点で触れる） ・「ベッド柵」NG → 「サイドレール」で統一 ※柵という表現は身体拘束を連想する為不適切
<p>【演習必要物品】</p> <p>演習1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベッド(受講生6名に対して1台以上) ・シーツ(ベッド数と同数) ・枕(ベッド数と同数) ・枕カバー(ベッド数と同数) ・サイドレール(ベッド数と同数) ・延長コード(各ベッド用) <p>演習2</p> <p>上記に加え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シーツ(各ベッド1枚、計2枚) 防水シーツ(各ベッド1枚) 	

13 日目

9 ころとからだのしくみと生活支援技術（テキスト第2巻 P134～P141・P148～P155）

9（7）移動・移乗に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護 その①

時間 目安	講義内容及び演習の実施方法
1 時限	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・残存能力の活用・自立支援、ボディメカニクスの基本原則、利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法、利用者の自然な動きの活用、重心・重力の動きの理解などの移動・移乗に関する基礎知識について学習する <p>※配布資料(仰臥位・側臥位・端座位など基本的体位のイラスト)の解説</p>
2 時限	<p>《演習内容》</p> <p>演習 1 ボディメカニクスの実践</p> <p>【指導のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者、介護職双方に無理がない介護の実践を行うために、ボディメカニクス 8 つの原則を指導する。 ※「介助量に合わせて重心の距離を変える」を付け加える。 ・パワーポジションについて解説、確認を行う <ul style="list-style-type: none"> ・支持基底面を場面によって肩幅より広く取り、膝を曲げて重心を低くする。 ・パワーポジションの姿勢で、支持基底面内での重心移動の練習をする
3 時限	<ul style="list-style-type: none"> ※特に、水平移動(持ち上げない)、重心移動(腰に負担をかけない)の必要性を指導する ・立ち上がり動作のメカニズム確認(椅子からの立ち上がり。一部介助の立ち上がり) ・介助者の初動を促し、初動に合わせた介助ができるように指導する。 ・ポジショニングの必要性和褥瘡の 4 つの原因を確認する。 <p>※・P137「持っている力の活用」・P154「全身状態の低下」テスト出る</p>
(昼休憩) 4 時限	<p>演習 2 移動・移乗の支援</p> <p>2-1 体位変換の介護（一部介助・全介助）（2巻・P.148～P.149 参照）</p> <ul style="list-style-type: none"> ※一部介助は事例 2 の利用者を想定（武蔵さん） ※全介助は普通に比べて力が入らない事例 2 の利用者を想定（体調不良の武蔵さん） <p>☆（対面法・背面法両方向）※体の触れ方（面で触れる）について指導する</p>
5 時限	<p>2-2 仰臥位→側臥位→端座位→立位への介護（一部介助）（2巻・P.148～P.152 参照）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・起き上がり動作のメカニズム確認 ※事例 2 の利用者を想定（武蔵さん） ※介助バーの使い方、留意点を指導する <p>☆逆バージョンも実施する！（立位→端座位→即臥位→仰臥位）</p>
6 時限	<p>2-3 端座位→立位への介護（全介助）（2巻・P.168 参照）</p> <ul style="list-style-type: none"> ※車椅子は使わず立ち上がるまでの動作のみ指導・演習を行う ※普通に比べて力が入らない事例 2 の利用者を想定（体調不良の武蔵さん） <p>☆健側重心を意識して、重心移動・麻痺側のサポートを行う</p>
終了時刻 17:00	<p>《演習の留意点》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男性と女性の組み合わせに考慮し、演習中もセクハラに注意する ・ベッド上の体位変換を行う際に受講生の立ち位置に注意 ※パワーポジション（足先がベッド下のフレームに入り込み過ぎていると、前傾が強くなり腰痛の原因となる） ・側臥位の際、顎を引く、肩をコンパクトにするなど麻痺側の肘や手の巻き込みに留意する。また、介助バーへ手の巻き込みや、手首の捻挫等が起きない様に確認する ・重心移動を行う際に利用者、介助者共に移動する準備が出来ているか確認する（利用者の健側、患側の足のいちの確認。麻痺側の保護。前傾姿勢が取れるスペースの確保等）（介助者は特に移動する方向に支持基底面の確保ができていないと重心移動ができない） ・介助バーで手を挟んだり、顔をぶつけないように注視する。また介助バーをしっかり固定することに留意する
<p>【講義必要物品】 ・基本的な体位の資料 1 部(授業開始時に配布)</p> <p>【演習必要物品】 演習 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベッド(受講生 6 名に対して 1 台以上) ・シーツ(ベッド数と同数) ・枕(ベッド数と同数) ・枕カバー(ベッド数と同数) ・サイドレール(ベッド数と同数) ・延長コード(各ベッド用) ・介助バー(ベッド数と同数) 	

14 日目

9 ころとからだのしくみと生活支援技術（テキスト第2巻 P142～P147・P156～P181）

9（7）移動・移乗に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護 その②

時間 目安	講義内容及び演習の実施方法
1 時限	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法を理解する。 ・利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するころとからだの要因と支援方法について学習する ・移動行為と社会参加の留意点について学習する ・褥瘡予防について学習する <p>※テキスト第2巻 P142～P147・P156～P181</p>
2 時限	<p>《演習内容》</p> <p>演習3 半身麻痺の利用者の杖歩行の介護</p> <p>※想定利用者は左麻痺で軽度ふらつき有りの設定</p> <p>※杖の事前点検、患側の保護、介護者の立ち位置を含めた、転倒の防止への配慮を指導する</p> <p>※受講生も利用者役を行うことで杖を使った歩行動作を学習する。</p>
3 時限	<p>3-1 3動作歩行・2動作歩行・段差越え（障害物を越える）（2巻・P.156～158 参照）</p> <p>3-2 階段の昇降（2巻・P.159 参照）</p>
(昼休憩) 4 時限	<p>演習4 車いすでの移動介護</p> <p>※車いす各部の名称、取り扱い説明（安全な車いすのたたみ方、広げ方を指導する）（2巻・P144～145）</p> <p>※利用者は普段に比べて力が入らない事例2の利用者を想定（体調不良の武蔵さん）</p>
5 時限	<p>5-1 段差越え（2巻・P.169～171 参照）</p> <p>5-2 坂道の上り下り（2巻・P.172 参照）</p> <p>※外出コースは学校に事前確認して下さい（悪天候時は室内で演習）</p> <p>※筋力で操作するのではなく、重心の移動・骨格で支えるよう指導する。</p>
6 時限	<p>演習5 ベッド車いす間の移乗の介護</p> <p>4-1 一部介助でのベッド⇄車いす間の移乗介護（2巻・P.164～167 参照）</p> <p>※事例2の利用者を想定（武蔵さん）</p> <p>4-2 全介助でのベッド⇄車いす間の移乗介護（2巻・P.168 参照）</p> <p>※全介助は普段に比べて力が入らない事例2の利用者を想定（体調不良の武蔵さん）</p>
終了時刻 17:00	<p>《演習の留意点》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男性と女性の組み合わせに考慮し、演習中もセクハラに注意する ・体格差にも考慮し、講師は安全を最優先させ指導にあたる。 ・練習している受講生の支持基底面積が取れているか。車いすとの距離は適切か確認する ・講師は転倒等が起きた時でもすぐ対応できる距離で見守る ・車いすでの移動は、ハラスメントにならないよう配慮しながらも、介助する側、される側の体重差があるコンビを組ませない ・移乗時には利用者役を受講生のベッドからの転落事故が起きないか確認する ・介助バーで手を挟んだり、顔をぶつけないように注視する。また介助バーをしっかり固定することに留意する
<p>【演習必要物品】</p> <p>演習3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・杖(受講生2～4名に対して1本以上) ・段差用の台(1つ)又は、杖を並べて代用 <p>演習4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車いす(受講生6名に対して1台以上) ・段差用の台(1つ) <p>演習5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベッド(受講生6名に対して1台以上) ・シーツ(ベッド数と同数) ・枕(ベッド数と同数) ・枕カバー(ベッド数と同数) ・介助バー(ベッド数と同数) ・延長コード(各ベッド用) ・車いす(受講生6名に対して1台以上) 	

15日目

9 ころとからだのしくみと生活支援技術（テキスト第2巻）

9（6）整容に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護（P116～133）

時間 目安	講義内容及び演習の実施方法
1 時限	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整容に関する基礎知識、整容の支援技術について学習する {身体状況に合わせた衣服の選択、着脱、身じたく、整容行動（整髪、髭の手入れ、化粧）、洗面の意義・効果}
2 時限	<p>※P128「脱健着患」テストにでる</p> <p>※上から掴まない。面で触れ、下から支える</p>
3 時限 (昼休憩)	<p>《演習内容》</p> <p>演習1 部分清拭(顔拭き)の介護（2巻・P.119参照）</p> <p>※清拭タオルの使用方法（たたみ方。持ち方。面で触れる等）</p> <p>※口頭で解説後、簡易な演習を行う</p>
4 時限	<p>演習2 座位での衣服の着脱(一部介助・片麻痺)の介護（2巻・P.128～P.129参照）</p> <p>※事例2の利用者を想定（武蔵さん）</p> <p>2-1 前開きの上衣の着脱</p> <p>2-2 かぶりの上衣の着脱</p>
5 時限	<p>2-3 ズボンの着</p> <p>※立位時は健足荷重になるよう考慮する</p>
6 時限	<p>演習3 ベッド上での衣類の着脱(全面介助・片麻痺)の介護（2巻・P.130～P.132参照）</p> <p>※全介助は普段に比べて力が入らない事例2の利用者を想定（体調不良の武蔵さん）</p> <p>3-1 前開き上衣の着脱</p> <p>3-2 ズボンの着脱</p>
終了時刻 17:00	<p>《演習の留意点》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男性と女性の組み合わせに考慮し、演習中もセクハラに注意する ・介助者の初動を促し、初動に合わせた介助ができるように指導する。 ・ベッド上の体位変換を行う際に受講生の立ち位置に注意 ※パワーポジション（足先がベッド下のフレームに入り込み過ぎていると、前傾が強くなり腰痛の原因となる） ・側臥位の際、顎を引く、肩をコンパクトにするなど麻痺側の肘や手の巻き込みに留意する。また、介助バーへ手の巻き込みや、手首の捻挫等が起きないように確認する ・仰臥位の姿勢を取るためヘルニアが有る受講生は利用者役をやらないように、腰痛を持っている方にも強いる事が無いように気を付ける
<p>【演習必要物品】</p> <p>演習1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェイスタオル(講師解説用) <p>演習2、演習3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベッド(受講生6名に対して1台以上) ・シーツ(ベッド数と同数) ・枕(ベッド数と同数) ・枕カバー(ベッド数と同数) ・介助バー(ベッド数と同数。サイドレールでも可) ・延長コード(各ベッド用) ・バスタオル(ベッド数と同数) ・前開き上衣(講師デモ用) ・かぶり上衣(講師デモ用) ・ズボン(講師デモ用) 	

16日目

9 ところとからだのしくみと生活支援技術（テキスト第2巻）

9（8） 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護（P182～213）

時間 目安	講義内容及び演習の実施方法
1 時限	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食事に関する基礎知識（食事をする意味、食事のケアに対する介護者の意識）について学習する <p>※P183「介護の視点からみた食事」テストに出る</p>
2 時限	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食事に関した身体的な理解（低栄養・脱水の弊害、咀嚼・嚥下のメカニズム）について学習する ・ 食事に関する心理的な理解（空腹感、満腹感、好み）について学習する ・ 食事に関する環境の理解（食事の時間・場所等、食事の姿勢）について学習する <p>※P199「食事解除の実際」テストに出る</p>
3 時限	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食事に関する福祉用具の活用と介助方法について学習する ・ 楽しい食事を阻害するところとからだの要因と支援方法について学習する ・ 食事と社会参加の留意点と支援について学習する ・ 誤嚥性肺炎の予防の視点と、口腔ケアの重要性、方法について学習する
(昼休憩)	<p>《演習内容》</p> <p>演習 1 食事、飲水の介護</p>
4 時限	<p>※想定利用者は講師にて設定</p> <p>☆正しいトロミの付けたを演習で行う （トロミをつける飲み物によってトロミがつく時間が異なる、とろみの分量、攪拌方法）</p> <p>※使用するトロミ剤によって量とトロミがつく時間も異なる</p> <p>※先にトロミ使用者の水分を用意してから他の方の水分を準備し、提供前に再度攪拌する</p> <p>1-1 椅子上での全介助（2巻・P.190参照）</p>
5 時限	<p>1-2 椅子上での視覚障害者の介助（2巻・P.194参照）</p> <p>※視覚障害者の介助ではクロックポジションを解説する</p> <p>1-3 ベッド上での全介助（2巻・P.191～P.193参照）</p> <p>※ベッド上での全介助は留意点の解説のみでよい</p>
終了時刻 17:00	<p>演習 2 口腔ケアの介護（2巻・P.204～P.207参照）</p> <p>※椅子上で自分自身の口腔ケアを演習する</p> <p>《演習の留意点》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 飲水の介護の際にはムセが起きないように注意 ・ トロミ調整剤を利用するのでダマによる窒息など起きないように使い方を説明後に実施する
<p>【演習必要物品】</p> <p>演習 1</p> <p>食事介助物品（見せるのみ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ トロミ剤 ・ 食器類 ・ トレー ・ 自助具 ・ 食事エプロン ・ ガーグルベースン ・ スポンジブラシ ・ 手鏡 ・ ストロー ・ コップ <p>演習 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歯ブラシ(講師デモ用) 	

17日目

9 こころとからだのしくみと生活支援技術（テキスト第2巻）

9（10） 排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護（P244～269）

時間 目安	講義内容及び演習の実施方法
1 時限	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄に関する身体的（生理的）側面について学習する ・排泄に関する心理的側面（プライド・羞恥心、プライバシーの確保、心理的負担・尊厳や生きる意欲との関連）について学習する
2 時限	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄に関する社会的側面（排泄障害が日常生活に及ぼす影響、おむつ使用の弊害）について学習する <p>※P256「女性に対しての陰部清拭の方法」テストに出る</p>
3 時限	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄環境整備と排泄用具の活用方法について学習する ・便秘の予防（水分の摂取量保持、食事内容の工夫、腹部マッサージ）について学習する
(昼休憩)	<p>《演習内容》</p>
4 時限	<p>演習1 物品紹介として、尿器、差し込み便器の解説をする（2巻・P. 258, P. 263 参照）</p> <p>※デモンストレーションのみ</p>
5 時限	<p>演習2 おむつ交換（臥床状態での陰部清浄含む）（2巻・P. 256～P. 257 参照）</p> <p>※全介助は普段に比べて力が入らない事例2の利用者を想定（体調不良の武蔵さん）</p>
6 時限	<p>演習3 一部介助を要する利用者のポータブルトイレ介護（2巻・P. 254～P. 255 参照）</p>
終了時刻 17:00	<p>※事例2の利用者を想定（一部介助）武蔵さん</p> <p>※ポータブルトイレの扱い方を説明する</p> <p>※プライバシーへの配慮（声掛け、環境）</p> <p>※ズボン、パンツの臀部側は介助。座ってからプライバシーに配慮して自分で下げてもらう</p> <p>※排泄後、ズボン、パンツ上は座ったままプライバシーに配慮して自分であげてもらう。上げきれない部分は立位時に介助する。</p>
	<p>《演習の留意点》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男性と女性の組み合わせに考慮し、演習中もセクハラに注意する ・おむつ交換の際にはハラスメントに関わる言動に気を付ける ・ポータブルトイレの移乗の際には7回目の講義を参考にしてください ※パワーポジション。利用者、介助者双方の重心の移動を意識する。 ・介助バーで手を挟むことに注意、介助バーをしっかり固定することに留意する
	<p>【演習必要物品】</p> <p>演習1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男性用尿器 ・女性用尿器 ・差し込み便器 <p>演習2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バスタオル（ベッド数と同数） ・テープ式紙おむつ（各ベッド2つ。サイズM・L・LLあり） ・陰洗ボトル（ベッド数と同数） ・フェイスタオル×2（陰洗タオルのデモとして） ・尿とりパット（デモ用） ・モデル用ズボン（ベッド数と同数） <p>演習3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベッド（受講生6名に対して1台以上） ・シーツ（ベッド数と同数） ・枕（ベッド数と同数） ・枕カバー（ベッド数と同数） ・介助バー（ベッド数と同数。足りない場合は交代での使用を促す） ・延長コード（各ベッド用） ・ポータブルトイレ（ベッド数と同数。足りない場合は車いすで代用） ・バスタオル（ベッド数と同数） ・フェイスタオル（講師デモ用、手を拭く用のタオルとして） ・使い捨て手袋（講師デモ用） ・モデル用ズボン（ベッド数と同数） ・リハビリパンツ

18日目

9 ころとからだのしくみと生活支援技術（テキスト第2巻）

9（9）入浴、清潔保持に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護（P214～243）

時間目安	講義内容及び演習の実施方法
1 時限	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入浴に関する基礎知識（入浴・清潔保持の意義、体調確認の視点、羞恥心や遠慮への配慮など）について学習する。[入浴の効果、作用、皮膚清潔の基礎知識] <p>※P243「高血圧がある場合」テストに出る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洗髪の方法と留意点について学習する
2 時限	<p>《演習内容》</p> <p>演習 1 洗髪の介護（臥床状態での介護）（2巻・P.234～P.235 参照）</p>
3 時限 (昼休憩)	<ul style="list-style-type: none"> ※全介助は普段に比べて力が入らない事例2の利用者を想定（体調不良の武蔵さん） ※お湯の準備、ブレイカーの都合上、午前中に実施してください ※ケリーパッドの作り方を指導する ※パワーポジションを取り、腰に負担のかからない姿勢をとる
4 時限	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全身清拭（身体状況の確認、室内環境の調整、使用物品の準備と使用方法、全身の拭き方、身体の支え方）について学習する。 ・目・鼻腔・耳・の清潔方法と留意点について学習する（整容で実施済みなので解説のみ） ・臥床状態での陰部洗浄の方法と留意点について学習する（排泄の授業で実施済み） ・足浴・手浴の方法と留意点について学習する ・入浴用具、整容用具の種類や活用方法について学習する
5 時限	<p>《演習内容》</p> <p>演習 2 入浴の介護（片麻痺の利用者、浴槽への出入り）（2巻・P.222～P.224 参照）</p>
6 時限	<ul style="list-style-type: none"> ※簡易浴槽を見せながら口頭で解説し簡易な演習を実施 <p>演習 3 全身清拭の介護（2巻・P.236～P.237 参照）</p> <ul style="list-style-type: none"> ※口頭またはデモンストレーションを行い、簡易な演習を実施 <p>演習 4 足浴の介護（2巻・P.232～P.233 参照）</p> <ul style="list-style-type: none"> ※想定利用者は講師で設定 ※軍手はデモのみ。教室の衛生管理上、石鹸の使用はしない。
終了時刻 17:00	<p>《演習の留意点》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男性と女性の組み合わせに考慮し、演習中もセクハラに注意する ・お湯を使うため室内の湿度と受講生様の体調に配慮（換気や空調管理）また火傷や床濡れによる転倒等に気を付ける ・疾患や服薬の影響などでウィッグを使っている方や椎間板ヘルニアの方など何らかの理由でモデルを出来ない方に配慮する ・介護者役の方は洗髪時や洗髪器のセッティング等で同じ姿勢を取り続けてしまうので、腰痛予防の為に姿勢の確認と重心の位置を確認する ・ブルーシート上の汚水用バケツ周囲が濡れている事も有るので、滑って転倒してしまう事が無いよう気を付ける
<p>【演習必要物品】</p> <p>演習 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベッド(受講生 6 名に対して 1 台以上) ・シーツ(ベッド数と同数) ・枕(ベッド数と同数) ・枕カバー(ベッド数と同数) ・延長コード(各ベッド用) ・ビニールシート(ベッド数と同数) ・バケツ大(汚水用にベッド数と同数) ・バケツ中(かけるお湯用にベッド数と同数) ・お湯をかける用プラスチックコップ(各ベッド 1 つ以上) ・リンスインシャンプー(各ベッド 1 つ) ・特大バケツにお湯 ・お湯を汲むための手桶 ・バスタオル(2 枚) ・フェイスタオル(1 枚) ・洗濯バサミ(2 つ) ・輪ゴム(2 本) ・ポリ袋 3 枚(うち 1 枚は底抜け) ※網掛け部は洗髪器用 <p>演習 2 ・簡易浴槽 1 台(見せながら解説用)</p> <p>演習 3 ・フェイスタオル(講師デモ用)</p> <p>演習 4 ・足浴用桶(数は演習に応じて) ・ビニールシート(演習に合わせて) ・特大バケツにお湯</p> <ul style="list-style-type: none"> ・軍手(デモで使用)、バスタオル、ポリ袋(講師デモ用) 	

19 日目

9 ころとからだのしくみと生活支援技術（テキスト第2巻）

9（12） 死にゆく人に関するころとからだのしくみと終末期介護（P288～300）

9（13） 介護過程の基礎的理解①（P.316～323）

時間 目安	講義内容及び演習の実施方法
1 時限	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 終末期に関する基礎知識について概説し終末期ケアについて学習する ・ 終末期におけるからだのしくみ（生から死への過程）について学習する ・ 高齢者の死に至る過程（高齢者の自然死（老衰）、癌死）について学習する ・ 終末期におけるころのしくみ（「死」に向き合うころの理解）について学習する
2 時限	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨終が近づいたときの兆候と介護のあり方について概説し、苦痛の少ない死への支援の方法、他職種間の情報共有の必要性について学習する <p>※297「家族にとって納得できる死」テストに出る</p>
3 時限	<p>《演習内容》 ケーススタディ</p> <p>事例：実際にあったターミナルケアの事例を題材する。</p> <p>グループワーク：参加者はグループに分かれて、事例について議論する。</p> <p>議論内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事例における利用者の状態やご家族の状況を分析する。 ・ 実際にどのようなケアを行ったのかを確認する。 ・ より良いケアを提供するために、どのような点に注意すべきだったのかを話し合う。 <p>発表：</p> <p>各グループで議論内容を発表する。</p>
(昼休憩)	
4 時限	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護過程の目的・意義・展開を学習する <p>※根拠に基づいた介護の実践をするためにも、ケアプランと介護過程の内容の理解が大切であると理解できるよう概説する。</p>
5 時限	<p>※介護過程の展開において、アセスメントがもっとも重要であると理解できるように概説する</p> <p>※P317「介護過程の展開イメージ」テストに出る</p>
16:00～ 流れ解散	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護過程を通じてチームアプローチの重要性と方法を学習する ※専門職ごとに見ている視点が違うことを理解できるように概説する ※介護過程の展開で最も重要なのは介護職同士のチームであることを学習する <p>《模擬テスト》※担当講師が対応。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 模擬テストと解答用紙を配布し一斉開始。 ② 問題を解き終わった方は挙手をしてもらい、解答を渡してその場で自己採点してもらいます。（1問2点） ③ 受講生は点数を講師に報告したらその時点で帰宅可能です。 ※70点未満の方は、その場で復習してもらい、わからないところがあれば指導してください ※受講生の模擬試験の結果を集計用紙に記載します。 ※模擬試験の問題用紙は持ち帰って頂いて、修了評価試験に向けて勉強するよう促します
	<p>【必要物品】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 模擬テスト問題（人数分＋1） ・ 模擬テスト解答用紙（人数分＋1） ・ 模擬テスト解答（人数分＋1） ・ 点数集計表（講師管理）

20日目

9 ころとからだのしくみと生活支援技術（テキスト第2巻）

9（13） 介護過程の基礎的理解②（P.316～323）

9（14） 総合生活支援技術演習①（P.324～347）

時間 目安	講義内容及び演習の実施方法
1 時限	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 19 日目に学んだ「介護過程の目的・意義・展開」 「介護過程を通じてチームアプローチの重要性と方法」について振り返りながら、捕捉説明を行い、介護過程の理解を深める
2 時限	<p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事例 1（国分寺さん）の情報収集をし、具体的援助内容用紙に援助内容を記入していく。 「挨拶・体調の確認・説明と同意を得る」⇨「ベッドから椅子に座ってもらう」⇨「必要物品の準備をし、ベッドメイキングをする」⇨「外出するための上着を準備する」⇨「T 字杖の安全を確認する」⇨「杖を握ってもらい玄関まで案内する（途中段差を越える）」⇨「体調や気分を確認する」
3 時限	<p>の流れに対しグループに分かれ介護過程を展開し、介護計画書を作成する（教室の規定ベッド数が 4 ベッドなので、練習を考慮して 4 グループ以下で分ける）</p> <p>※手順書が完成していることがテスト行う条件となるので、必ず完成させる。</p> <p>ノンネイティブの方も日本語で作成してもらう。</p> <p>《介護計画立案グループワーク・練習》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ベッド等の物品を活用しながら、介護計画立案のグループワーク、実技練習を促す <p>【指導のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護過程の目的と意義、介護過程の展開プロセスを指導する ・ これまで学んできたことを振り返りながら、別紙事例 1 について、計画書の作成を通し、利用者の心身の状況に合わせた介護を提供する視点を指導する ・ 受講生自らがアセスメントを行い、介護計画を作成できるよう、講師はアドバイスをするに留め、講師が具体的な介助方法を示さないよう留意して指導にあたる ・ 展開が進まないグループに対しては、見落とししている情報はないか？など、講師から質問を投げかけ、話し合いを促しながら指導にあたる ・ 介護計画の作成にあたっては、「安全性」「快適性」「自立支援」について偏りがないよう指導する ・ 必要物品についても受講生が考えられるよう指導する ・ 手順書にはセリフではなく、やること、留意点を記入するよう指導する
(昼休憩)	
4 時限	<p>《実技評価》</p>
5 時限	<p>想定事例 1 について、グループごとに作成した介護計画に基づいた介護を、受講生が利用者</p>
6 時限	<p>役／介護者役に分かれ実施し、評価表を用いて客観的に評価し、フィードバックをする</p>
終了時刻 17:00	<p>※待機するグループに対しパーテーション等を使用し、実技演習の様子が見えないように配慮する。</p>
	<p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ レイアウトは、各校舎のレイアウト方法に準ずる ・ 講師一人につき受講生 2 人まで同時に評価可とする ・ 総合生活支援技術演習評価シートにおける ABCD 評価で、総合評価 A または総合評価 B を合格とする ・ 演習チェックリストについては、評価の一部が「C」以下である場合は指導対象とし、全ての項目が「B」以上になるよう指導する。 ・ 総合評価が「C」以下の場合は個別指導後、「C」又は「D」の項目について再テストを行って下さい。当日中に合格できそうもない場合は事務局まで相談してください。
	<p>【演習必要物品】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ベッド ・ シーツ交換物品 ・ パジャマ上 2 組（上着の代わり） ・ 介護計画書（事例 1 アセスメント表＋介護計画書）

21 日目

9 こころとからだのしくみと生活支援技術（テキスト第2巻）

9（13） 介護過程の基礎的理解③（P.316～323）

9（14） 総合生活支援技術演習②（P.324～347）

時間 目安	講義内容及び演習の実施方法
1 時限	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 19、20 日目に学んだ「介護過程の目的・意義・展開」 「介護過程を通じてチームアプローチの重要性と方法」について振り返りながら、捕捉説明を行い、介護過程の理解を深める
2 時限	<p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事例 2（武蔵さん）の情報収集をし、具体的援助内容用紙に援助内容を記入していく。 「利用者の元を訪れ、用件と体調を確認する」⇨「カーテン（居室のドアなど）を閉める」⇨「仰臥位から起き上がり、端座位にする」⇨「端座位から立ち上がりを介助する」⇨「下衣の脱衣を介助する」⇨「ポータブルトイレに座ってもらう」⇨「排泄中の利用者から離れる」⇨「ポータブルトイレからの立ち上がりを介助する」⇨「下衣の着衣を介助する」⇨「端座位への着衣を介助する」⇨「ベッドへの臥位を介助する」⇨「体調気分の確認をする」⇨「カーテン（居室のドアなど）を開ける」⇨「排泄物の観察・記録をする」⇨「使用物品を片付ける」の流れに対しグループに分かれ介護過程を展開し、介護計画書を作成する（教室の規定ベッド数が 4 ベッドなので、練習を考慮して 4 グループ以下で分ける）
3 時限	<p>※手順書が完成していることがテスト行う条件となるので、必ず完成させる。 ノンネイティブの方も日本語で作成してもらう。</p>
(昼休憩)	<p>《介護計画立案グループワーク・練習》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ベッド等の物品を活用しながら、介護計画立案のグループワーク、実技練習を促す <p>【指導のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護過程の目的と意義、介護過程の展開プロセスを指導する ・ これまで学んできたことを振り返りながら、別紙事例 1 について、計画書の作成を通し、利用者の心身の状況に合わせた介護を提供する視点を指導する ・ 受講生自らがアセスメントを行い、介護計画を作成できるよう、講師はアドバイスをするに留め、講師が具体的な介助方法を示さないよう留意して指導にあたる ・ 展開が進まないグループに対しては、見落としている情報はないか？など、講師から質問を投げかけ、話し合いを促しながら指導にあたる ・ 介護計画作成は「安全性」「快適性」「自立支援」について偏りがないよう指導する ・ 必要物品についても受講生が考えられるよう指導する ・ 手順書にはセリフではなく、やること、留意点を記入するよう指導する
4 時限 5 時限 6 時限	<p>《実技評価》</p> <p>想定事例 2 について、グループごとに作成した介護計画に基づいた介護を、受講生が利用者役／介護者役に分かれ実施し、評価表を用いて客観的に評価し、フィードバックをする</p> <p>※待機するグループに対しパーテーション等で、実技演習の様子が見えないよう配慮する。</p>
終了時刻 17:00	<p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ レイアウトは、各校舎のレイアウト方法に準ずる ・ 講師一人につき受講生 2 人まで同時に評価可とする ・ 総合生活支援技術演習評価シートにおける ABCD 評価で、総合評価 A 又は総合評価 B が合格 ・ 演習チェックリストについては、評価の一部が「C」以下である場合は指導対象とし、全ての項目が「B」以上になるよう指導する。 ・ 総合評価が「C」以下の場合は個別指導後、「C」又は「D」の項目について再テストを行って下さい。当日中に合格できそうもない場合は事務局まで相談してください。
<p>【演習必要物品】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ベッド ・ ポータブルトイレ ・ パジャマズボン ・ バスタオル ・ フェイスタオル ・ 介護計画書（事例 3 アセスメント表＋介護計画書） 	

22 日目

10 振り返り (テキスト第 2 巻)

10 (1) 振り返り (P.350~355)

10 (2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修

時間 目安	講義内容及び演習の実施方法
1 時限 2 時限 3 時限 (昼休憩)	《講義内容》 ・研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきことを再確認する ・根拠に基づく介護についての要点を再確認する(利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等) 《演習》 ・グループごとに研修前に描いていた介護のイメージと、研修を通じた介護のイメージの変化について話し合い、その変化の理由を考え、学習することの必要性の理解を促す
4 時限 終了時刻 14:40	《講義内容》 ・研修終了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における実例 (Off-JT、OJT) を紹介しながら、就業への備えについて説明する ・介護職員のキャリアパスについて概説し、継続的に学習すること重要性について説明する 《授業終了後、修了評価筆記試験》 (14:50~15:50) ① 修了評価筆記試験問題用紙と解答用紙を配布し一斉開始。 ② 問題を解き終わった方は挙手をしてもらい、講師又は事務局で回収しその場で講師と事務局で採点します。 ③ 70点以上で合格です。 ※70点未満の方は、その場で復習してもらい、卒業式後再試験を行います。 ※受講生の修了試験の結果を集計用紙に記載します。 ※解答用紙の原本を保管し、コピーを生徒に返却します。 ※問題用紙は回収するので記入禁止のアナウンスをします。 《卒業式》16:00~ 修了試験合格者を対象に卒業式を行います。 先生もぜひ参加して下さい。
【必要物品】 ・修了評価筆記試験問題用紙 (人数分+1) ・修了評価筆記試験解答用紙 (人数分+1) ・修了評価筆記試験解答 (人数分+2) ・点数集計表 (事務局管理)	

介護職員初任者研修 修了評価試験問題チェック表

事業者名	アンダンテキャピタル株式会社
研修指定番号	

【修了評価問題作成時の注意】

- 修了評価試験は、指定基準別紙1「カリキュラムの取扱い」別表3-1の修了時の評価ポイントに沿った内容で作成すること。
- 1時間程度の筆記試験による修了評価を実施すること。
- 各項目について、修了評価ポイントは全て出題しなくてもよいが、下記に示している修了評価ポイントの問題を必ず1問以上は出題すること。
- 問題は各項目から最低1問は作成すること。
- 1「職務の理解」10「振り返り」以外の科目は網羅するように出題すること。
- 1「職務の理解」10「振り返り」及び介護技術演習で評価を行う項目の問題は出題しなくても差し支えない。
- 記述式問題の場合は解答が明確な問題にする。（用語の穴埋め、〇〇の原則の記述等）

科目 項目	問題数	該当問題番号	修了評価ポイント（国取扱細則）		
2 介護における尊厳の保持・自立支援					
①人権と尊厳を支える介護	2	問題3	尊厳の保持 QOL ノーマライゼーション 虐待の定義 身体拘束 利用者の尊厳 アラビアンを傷つける介護の基本的ポイント		
		問題4	その他（エンパワーメント）		
		問題1	自立支援		
			問題2	予防介護 その他（）	
		3 介護の基本			
		①介護職の役割、専門性と多職種との連携	1		介護の基本視点 家族介護と専門職の介護の違い(専門性) 介護職の基本的役割
				問題5	多職種との連携 その他（）
問題7	介護職の職業倫理 利用者・家族等と関わる際の留意点 その他（）				
	問題8			リスクマネジメント 事故予防 問題9	
感染対策 その他（）					
問題10		介護職の健康管理（腰痛予防・感染予防） ストレスマネジメント その他（）			
	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携				
①介護保険制度	1		生活支援の中での介護保険制度の位置付け 各サービスや地域支援の役割		
		問題11	介護保険制度の理念 財源構成と保険料負担の大枠 利用者負担割合 ケアマネジメントの意義 サービスのしくみ、種別、内容 サービス利用の流れ その他（）		
		問題14	医行為の考え方 介護福祉士等が行う医行為 医療・看護との連携の理解		
			問題15	リハビリテーションの理念 その他（）	
		②医療との連携とリハビリテーション	2		障害者総合支援制度に基づくサービス 代表的な障害者福祉サービス サービスのしくみ、種別、内容
				問題12	サービス利用の流れ 権利擁護 成年後見制度、個人情報保護法、日常生活自立支援事業
				問題13	その他（自立支援給付と利用者負担）
③障害福祉制度およびその他制度	2				

5 介護におけるコミュニケーション技術			
①介護におけるコミュニケーション	2		基本的なコミュニケーション上のポイント（共感）
			基本的なコミュニケーション上のポイント（受容）
			基本的なコミュニケーション上のポイント（傾聴）
			基本的なコミュニケーション上のポイント（気付き）
			家族の心理、葛藤の存在
		問題16	相談援助技術の重要性
			介護職として持つべき視点
		問題17	その他（ バイステックの7原則 ）
②介護におけるチームのコミュニケーション	2	問題18, 19	記録の機能と重要性、主要なポイント
			報告
			ケアカンファレンス
			その他（ ）
6 老化の理解			
①老化に伴うところとからだの変化と日常	2		加齢、老化に伴う変化（生理的変化）
		問題21	加齢、老化に伴う変化（心身の変化）
		問題20	社会面・身体面・精神面・知的能力面に着目した心理的特徴（社会的立場の喪失感、運動機能低下による無力感・羞恥心、知的機能低下による意欲の低下、感覚機能低下によるストレス・疎外感）
		その他（ ）	
②高齢者と健康	2	問題22, 23	高齢者に多い疾病（症状・特徴・治療・生活上の留意点・疾病による症状や訴え）
			その他（ ）
7 認知症の理解			
①認知症を取り巻く状況	1	問題24	認知症ケアの理念(利用者中心という考え方)
			その他（ ）
②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2		「物忘れ」と「認知症」の違い
		問題26	認知症の原因疾患とその症状、ケアのポイント
			認知症利用者の健康管理
	問題25	その他（ 脳の構造と機能 ）	
③認知症に伴うところとからだの変化と日常生活	2	問題27	認知症の中核症状、それに影響する要因
			認知症の行動・心理症状（BPSD）、それに影響する要因
			認知症の心理、行動のポイント
		問題28	認知症利用者への対応（生活環境、コミュニケーション）
		その他（ ）	
④家族への支援	1		家族の気持ちや、家族が受けやすいストレス
		問題29	レスパイト
		その他（ ）	
8 障害の理解			
①障害の基礎的理解	2		障害の概念
		問題31	ICF
		問題30	その他（ 障害者総合支援法 ）
②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	2	問題32, 33	各障害の内容、特徴
			障害に応じた社会支援の考え方
			障害の特性と介護上の留意点
			その他（ ）
③家族の心理、かかわり支援の理解	1	問題34	障害の受容のプロセス
			レスパイト
			その他（ ）

9 こころとからだのしくみと生活支援技術		
①介護の基本的な考え方	1	問題35 理論に基づく介護（ICFの視点、我流介護の排除） 法的根拠に基づく介護 その他（ ）
		学習と記憶
②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	1	問題36 感情と意欲の基礎知識、いきがい 老化や障害への適応行動、阻害要因 こころと行動 からだの状態が与える影響 その他（ ）
		問題37 人体の構造、機能 ボディメカニクス その他（ ）
		問題38, 39 家事援助の基礎知識 生活支援の考え方 その他（ ）
		問題40 快適な居住環境の基礎知識 住宅改修、バリアフリー 問題41 福祉用具に関する留意点と支援方法 その他（ ）
③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	1	問題42 その他（ 衣服の着脱 ）
		問題43 移動・移乗の基礎知識 問題44 その他（ 褥瘡の原因 ）
④生活と家事	2	問題45 食事介助の基礎知識 口腔ケアの基礎知識 問題46 その他（ 介助の実際 ）
		問題47 睡眠に関する基礎知識 その他（ ）
⑤快適な居住環境整備と介護	2	問題48 介護従事者の基本的態度・留意点 その他（ ）
		問題6 介護過程の目的・意義・展開 介護過程とチームアプローチ その他（ ）
⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	1	整容の基礎知識
⑦移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	2	移動・移乗の基礎知識
⑧食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	2	食事介助の基礎知識
⑨入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	1	入浴に関する基礎知識 問題49 その他（ 楽しい入浴を阻害する要因の理解と支援方法 ）
⑩排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	1	問題50 排泄に関する基礎知識 その他（ ）
⑪睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	1	問題47 睡眠に関する基礎知識 その他（ ）
⑫死にゆく人に関したこころとからだのしくみと終末期介護	1	ターミナルケアの考え方 ターミナルケアにおける介護職の役割と多職種との連携 問題48 介護従事者の基本的態度・留意点 その他（ ）
		問題6 介護過程の目的・意義・展開 介護過程とチームアプローチ その他（ ）
⑬介護過程の基礎的理解	1	問題6 介護過程の目的・意義・展開 介護過程とチームアプローチ その他（ ）